



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ハンガリー革命における国家機構 : タナーチ(評議会)権力の構造, 1919年
Author(s)	羽場, 久み子; HABA, Kumiko
Citation	スラヴ研究, 30, 33-70
Issue Date	1982-10-28
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/5132">https://hdl.handle.net/2115/5132</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	KJ00002052879.pdf



# ハンガリー革命における国家機構

——タナーチ（評議会）権力の構造，1919年——

羽 場 久 渥 子

序	
I 章	タナーチの成立と初期の活動
II 章	革命政府および連邦中央執行委員会
III 章	全国タナーチ選挙
IV 章	タナーチ国家機構の運営
V 章	タナーチと合同社会党
結び	

## 序

本稿は、1919年のハンガリーにおける国家機構、すなわち、ハンガリー・タナーチ（評議会）共和国 Magyar Tanácsköztársaság におけるタナーチ権力の機能と活動について明らかにしようとするものである。それによって20世紀初頭の東欧における最初の社会主義国家が、短期間であれ、採用しようとした社会主義国家体制のあり方を検討する。それは、ハンガリー革命の特徴を明らかにする作業とも重なるものである。また、ハンガリー史の中で、長い間、断絶された時期ととらえられてきた1919年を、前後の時代との関連の中に位置づける試みでもある。

まず、ハンガリー革命およびタナーチの研究史について触れておきたい。ハンガリー革命については、その崩壊直後以来現在に至るまで膨大な研究が存在するが、それらは常にそれぞれの立場から、自らの利害を反映する形で行なわれてきた<sup>1)</sup>。しかし1960年に入ってから、ハンガリー史学界は全般的に大きな変革を遂げ、実証的研究・総合的把握の試みが始められた<sup>2)</sup>。これまで研究が不十分であった地方史、いわゆる反革命の運動、農民運動の研究や史料の編纂・刊行が進められ、自国史における歴史的課題やその発展継続の問題が重視されるようになった。こうした60年代の研究を総括したものとして、『ハンガリ

1) ハンガリー革命史に関する研究については、拙稿「ハンガリー革命（1918-1919）をめぐる研究動向」『国際関係学研究』別冊 II, 1981, 51-72頁, を参照。

2) 新しいハンガリー史学の方向に基づいた代表的研究に、以下のものがある。

Hajdu Tibor, A Magyarországi Tanácsköztársaság, Bp., 1969. Hajdu-, Az 1918-as Magyarországi polgári demokratikus forradalom, Bp., 1968. Hajdu-, Károlyi Mihály, Bp., 1978. Siklós András, Magyarország 1918-1919, Bp., 1978. Kende János, Forradalomról forradalom, Bp., 1972. Fukász György, A Magyarországi polgári radikalizmus történetéhez 1900-1918, Bp., 1960. Magyarország története VIII köt, Bp., 1976. Magyar szakszervezetek a Tanácsköztársaságban, Bp., 1970. A Magyar Tanácsköztársaság történeti jelentősége és nemzetközi hatása, Bp., 1960. A Magyarországi Tanácsköztársaság 50 évfordulója, Bp., 1970. A Magyarországi Tanácsköztársaság 60 évfordulója, Bp., 1980. Mészáros Károly, Az őszirózsás forradalom és a Tanácsköztársaság parasztpolitikája, Bp., 1966. L. Nagy Zsuzsa, A Párizsi Békekonferencia és Magyarország 1918-1919, Bp., 1965. L. Nagy-, Forradalom és

『タナーチ共和国 50 周年』論文集と、ハイドゥの 2 つの著書が出された<sup>3)</sup>。しかしタナーチ研究に関しては、まだ十分な検討が行なわれているとは言い難い。タナーチは常にハンガリー革命の原動力、中核として評価されながらも、タナーチ機構を独自に扱ったものはほとんど見い出されない<sup>4)</sup>。1958 年に、タナーチに関するハイドゥの研究書が出されたが、これは 50 年代のハンガリー史学の弱点をまだ克服しておらず、社会民主党の過小評価、共産党の過大評価、タナーチ形成をロシア革命の直接的影響の結果と見なすなどの問題点を持っている<sup>5)</sup>。

ところが現実には、タナーチは、近現代のハンガリー史、あるいは大衆の革命運動に深く根ざしてきたという事実がある。「タナーチ」はハンガリー語で、元来、提案・忠告を意味し、そこから、多数の人々が集まり論議すること、あるいはその組織を意味するようになった<sup>6)</sup>。1918 年に労働運動の中で最初に「タナーチ」組織の形成が訴えられた際、それは、当時は同一線上のものと考えられたロシアのソヴェト、パリ・コミューンの両方に由来する自律的組織、自治組織を意味するものであった。この時、労働運動、大衆運動の担い手は、運動の中で形成した組織を「タナーチ」と名づけることによって、担い手自身が権力・行政に関与しようとする姿勢を示したのである。これは、さかのぼれば、1848 年

---

ellenforradalom a Dunántúlon, Bp., 1961. Péteri György, A Magyar Tanácsköztársaság iparirányítási rendszere, Bp., 1979. Sarlós Béla, A Tanácsköztársaság jog rendszerének kialakulása, Bp., 1969. Borsányi György, Kun Béla, Ep., 1979. 史料集として代表的なものに、A Magyar munkásmozgalom történetének válogatott dokumentumai, V köt. Bp., 1956. VI köt.-A, 1959. VI köt.-B. 1960. Források Budapest Multjából, II köt. Bp., 1971. A Magyar Tanácsköztársaság röplapjai, bibliográfia és dokumentumgyűjtemény, Bp., 1959. A Magyar Tanácsköztársaság plakátjai az Országos Széchényi Könyvtárban, Bp., 1959. A Magyar Tanácsköztársaság szociálpolitikája, Válogatott rendeletek dokumentumok, cikkek, Bp., 1959. Mindenki Újakra készül..., Az 1918-19-es forradalmak irodaloma szöveggyűjtemény, II, III, IV köt. Bp., 1959-62. その他地方史や地方の運動を明らかにする史料集として、A Tanácsköztársaság Hajdu-Biharban, 1919, Debrecen, 1959. Fejér megyei történeti évkönyv, II köt., A Tanácsköztársaság Fejér megyében, Székesfehérvár, 1969. Válogatott dokumentumok Csongrád megye munkásmozgalmának történetéről, 1917-1919, Szeged, 1969. Válogatott dokumentumok a Baranyai-Pécsi munkásmozgalom történetéhez, II köt. Pécs, 1970. Válogatott dokumentumok és adatok Nógrád megye munkásmozgalmának történetéből, 1918-1919, Salgótarján, 1975. 等がある。この時期、多くの回想録も出版された。

新しいハンガリー史学の実状を踏まえた日本でのこの期の研究には、南塚信吾「ハンガリー革命の展開—トナーチ 権力成立前史—」『現代思想』1976 年 2 月第 4 巻 2 号, 243-265 頁, がある。なおハンガリー史学界の変化については、南塚信吾「ハンガリー歴史学の現状」『津田塾大学紀要』第 7 号, 1975 年, 45-61 頁参照。

- 3) A Magyarországi Tanácsköztársaság 50 évfordulója, Bp., 1970. Hajdu Tibor, Az 1918-as Magyarországi polgári demokratikus forradalom, Bp., 1968. Hajdu-, A Magyarországi Tanácsköztársaság, Bp., 1969.
- 4) 1950 年代に、タナーチの役割について幾つかの論文が出されている。Pecze Ferenc, A tanácsok jelentősége és szerepe a Magyar Tanácsköztársaság megteremtésében, *Jogtudományi Közlöny*, 1956, 129-138 old. Szentpéteri István, A Magyar Tanácsköztársaság megalakulása és a tanácsok, *Jogtudományi Közlöny*, 1958, 73-80 old. Hajdu Tibor, A tanácsok szerepe a magyar októberi polgári demokratikus forradalomban, *Századok*, 1954, 88 év, 2-3 sz, 245-265 old.
- 5) Hajdu Tibor, Tanácsok Magyarországon, 1918-19-ben, Bp., 1958. それらの問題点は、部分的には 1968, 69 年の 2 著書で是正されている。
- 6) Magyar értelmező kéziszótár (ハンガリー語註解小事典), Bp., 1978, 1331 old.

のハンガリー独立革命の発端ともなったピルヴァックス・サークル Pilvax-kör<sup>7)</sup>の、民衆を基盤にして社会を変革するという精神の継承でもあった。タナーチは、1956年、自立した社会主義を要求する運動の中で再び形成される。1956年の体制改革の運動において、人人は再び権力・行政を自らの手に掌握することを要求したのである。現在の社会主義体制下において、タナーチは、個々の地域の行政機関を意味するものとなり、市役所、県庁等を示す用語となっている。しかし、19世紀の運動に根を持ち、20世紀を通して継承されている、運動体としての「タナーチ」は、固定された権力機関ではなく、大衆が権力機関に関与あるいは参加することを要請する、その具体的組織として特徴づけられる。

その意味で、タナーチがハンガリーの最初の社会主義国家体制においてどのような役割を持ったのか、いかに機能したかを明らかにすることは重要であると思われる。加えて、ハンガリー革命の特徴として繰り返し指摘されてきた、平和革命、社会民主党と共産党との合同、社会民主党に対する共産党の妥協、政党による行政権力掌握の弱さ、あるいは政党自体の脆弱さ、土地の分割ではなく社会化、合同党における「共産党」の名称の不採用<sup>8)</sup>等の意味を、タナーチという運動体および社会主義国家機構の検討を通して立証し直したい。

7) オーストリア支配下におけるハンガリーの民主主義的改革を、貴族による議会内の改良でなく、大衆を基盤とした革命的変革によって行なうべきであるとした急進的知識人グループ。指導者はペテーフィ Petőfi Sándor, ヨーカイ Jókai Mór ら。彼らは急進的改革案を盛り込んだ12項目要求を掲げて、1848年3月15日に大衆集会を開き、代表団を選出して要求を市議会に提出した。Magyarország története, VI, 1848-1890, I, Bp., 1979, 70-78 old.

8) ハンガリー革命に関する欧米の研究, 1. Rudolf L. Tökés, *Béla Kun and the Hungarian Soviet Republic, The Origins and Role of the Communist Party of Hungary in the Revolution*, The Hoover Institution, 1967; 2. *The Hungarian Soviet Republic, An Evaluation and a Bibliography*, (ed. by Iván Völgyes), The Hoover Institution, 1970; 3. *Hungary in Revolution, 1918-19*, Nine Essays, (ed. by Iván Völgyes), Univ. of Nebraska, 1971; 4. *Revolution in perspective*, Essays on the Hungarian Soviet Republic of 1919, (ed. by Andrew C. Janos etc.), Univ. of California, 1971; 5. Peter Pastor, *Hungary between Wilson and Lenin, The Hungarian Revolution of 1918-1919 and the Big Three*, Columbia Univ., 1976; 6. Bennett Kovrig, *Communism in Hungary, From Kun to Kádár*, The Hoover Institution, 1979. のうち特に3, 4の中のヴェルジェンジュ, ケネツの研究は、ハンガリー革命のそうした特徴を強調してきた。Iván Völgyes, *Soviet Russia and Soviet Hungary*, in *Hungary in Revolution*, pp. 158-169; Peter Kenez, *Coalition Politics in the Hungarian Soviet Republic*, in *Revolution in perspective*, pp. 61-84. 彼らはその特徴を主に、ハンガリー社会民主党と共産党との力関係、あるいはハンガリー共産主義者の理論的弱さやその社会民主主義的資質によって説明している。しかし政党レベルでの説明だけでは、なぜハンガリー革命がそうした特徴を持たざるを得なかったのかという問題に充分答えていないと思われる。また論理的整合性を追求するあまり、事実を恣意的に解釈している点(たとえば、ハンガリー共産党がロシアから帰国した目的、タナーチ共和国の外交政策、土地政策に関して)も見られる。Völgyes, *op. cit.* pp. 161-162, 165, 168.

\* 本稿で使用したマニエスクリプトの略語を以下に示しておく。(ただし7は1919年の革命政府刊行資料)

1. Ministertanács... Ministertanács jegyzőkönyve, Országos Levéltár Archivum.
2. Kormányzótanács... Forradalmi Kormányzótanács jegyzőkönyve, Párttörténeti Intézete Archivum.
3. Budapest Központi M. K. tanács 500-as... Budapest Forradalmi Központi Munkás és Katonatanács 500-as Bizottság jegyzőkönyve, Párttörténeti Intézete Archivum.
4. Budapest Központi M. K. tanács 80-as... Budapest Forradalmi Központi Munkás és Katonatanács 80-as Bizottság jegyzőkönyve, Párttörténeti Intézete Archivum.

以上の点を踏まえて、本稿では、

I 章で、社会主義国家形成以前におけるタナーチの成立と運動を検討し、初期のタナーチの性格と活動の実態を明らかにする。

II 章で、社会主義国家機構の頂点である革命政府と、タナーチ大会で選出された連邦中央執行委員会の特徴とその活動を考察する。

III 章で、全国タナーチ選挙と、それによって選出されたタナーチ・メンバーの実態を検討する。

IV 章では、タナーチ選挙によって整えられたタナーチ国家機構が、首都および地方でいかに運営されていったのかを見る。

最後に V 章では、社会主義国家体制において看過しえない、タナーチと合同社会党との関係を考察する。ここでは特に、社会民主主義者と共産主義者の相克、党組織とタナーチ組織との相互関係を検討する。

## I 章 タナーチの成立と初期の活動

この章では、タナーチ共和国以前のハンガリーにおける最初のタナーチの成立と、1918年ハンガリー民主主義革命後の政権下におけるタナーチの活動について概観する。特にタナーチ成立以降、民主主義政権下でタナーチがどのように組織されたか、タナーチ共和国成立にむけてタナーチがいかなる役割を果たしたか、を考察する。

〔1〕 第一次世界大戦の勃発と社会民主党の戦争支持の声明以降低迷していたハンガリーの労働運動は、長期戦の不満に端を発した平和・食糧の要求によって大戦末期に再び上がり、1917年のロシア革命以降急速にたかまった。それは1918年1月の大衆ストライキにおいて一つの頂点に達した。このストライキは、大戦末期の社会的・経済的不満の高まりを背景に、1917年12月に開始されたソヴェト・ロシアとドイツとの講和交渉における、ドイツへの抗議とソヴェト支援を掲げて行なわれたものであった。ストは1月14日にウィーンで勃発し、17日にはブダペシュトに拡がった。人々は、ブレストリトフスク交渉への抗議、ソヴェト・ロシア支持、大戦終結の平和的講和を口々に要求した。1月13日の首都のスト集会において、穏健な社会民主党指導部に批判的立場を取っていた左派社会主義者たちは、即時、工場・職場で自分たちの労働者タナーチを形成するよう呼びかけを行なった。この呼びかけは6ヶ所の集会のうち4ヶ所で採択された<sup>1)</sup>。こうして、ハンガ

5. Budapest Kerületi tanácsok... Budapesti Kerületi tanácsok ülésének jegyzőkönyve, Párttörténeti Intézete Archivum.

6. Fejér megyei Levéltár... Fejér megyei Levéltár jegyzőkönyvei.

7. Kormányzótanács rendeletei... A Forradalmi Kormányzótanács és a Népbiztosok rendeletei, A rendeletek tartalomjegyzékével és tárgymutatójával, I, II, III, IV köt, Bp., 1919.

8. TAGYOB... A Tanácsköztársaság adatainak gyűjtésére szervezett Országos Bizottság jegyzőkönyve, Párttörténeti Intézete Archivum.

9. TOGY... A Tanácsok Országos Gyűlésének ülésének jegyzőkönyve, Párttörténeti Intézete Archivum.

10. SZKIB... Szövetséges Központi Intéző Bizottság jegyzőkönyve, Párttörténeti Intézete Archivum.

1) Népszava (社会民主党機関紙), 1918 január 15.

リーで最初の「ブダペシュト労働者 タナーチ Budapesti Munkástanács」が工場・作業場で労働者の手によって形成されていった。ストは全国の工業都市に拡がり、ストの中で、ハンガリー南部の工場地帯、ナジカニジャやセゲドでも労働者タナーチが形成された<sup>2)</sup>。ハンガリーでタナーチの呼びかけがこのように急速に労働者の間に浸透していった背景には、国際的な革命運動の高まりのみならず、ハンガリー社会主義運動における伝統的な労働組合運動の基盤の強さと、社会民主党指導部の権威の弱さが存在していた。タナーチは当初から、穏健な社会民主党指導部に対して、自分たちの運動を自ら管理し、方向を与えることを課題として形成されたのであった<sup>3)</sup>。

しかし続いておこった6月ストでは、労働者タナーチの性格は変化した。1916年以降軍需工場となっていた首都の国鉄機械工場の労働者が、労働条件改善、賃上げを要求しておこしたストライキは、社会民主党指導部の制止にもかかわらず、6月20日、左派社会主義者ランドレル Landler Jenő の呼びかけと各工場労働者の呼応によって全国に拡がった。1月の経験を基礎に、各工場・職場には次々と労働者タナーチが形成された。首都の西部にある工業都市ジュールでは、6月22日、ジュール労働者タナーチの名で、現政府の退陣と新しい民主主義政府の樹立を要求した<sup>4)</sup>。ストが党の手を離れ、急進的労働者自身の手で扱われていくことによって、党の指導力と政府に対する党の立場を悪化させることを懸念した社会民主党は、これを制御しようとした。そのため党は、党と労働組合指導部の影響の下にある労働者タナーチを形成し、6月27日、「労働者タナーチ」の名によってストの收拾を呼びかけた<sup>5)</sup>。こうして、6月ストライキは、タナーチの名の下に終結させられたのである。

[2] 1918年10月末におこったハンガリー民主主義革命を成功に導いたのは、1月および6月ストにおける各工場・職場でのタナーチ形成の経験と、兵士タナーチの力であった。10月25日、革命の勝利に大きな役割を果たすブダペシュト兵士タナーチ Budapesti Katonatanács が形成された。兵士タナーチは帰還兵士からなり、彼らは軍需工場や兵器庫から武器を持ち出して武装した。彼らは、カーロイ Károlyi Mihály の率いる国民会議 Nemzeti Tanács<sup>7)</sup>を支持し、革命の遂行を助けることを課題としていたが、カーロイの側は兵士タナーチを重視してはいなかった<sup>8)</sup>。この頃モスクワのハンガリー人共産主義者は、国民会議を打ち倒しすべての権力をタナーチへ、と訴えた<sup>9)</sup>が、タナーチはむしろ国民会議を支持する方向へ進んでいった。10月30日、ブダペシュトでは、10万人の集会が

2) A Magyar munkásmozgalom történetének válogatott dokumentumai (以下 MMTVD), V köt, Bp., 1956, 47 sz, 66 old; 49 sz, 67 old; Népszava, 1918 január 27.

3) Nevelő Irén, Néhány adat az 1918 januári tömegsztrájk történetéhez, *Párttörténeti Közlemények*, 1958, 2 sz, 106 old.

4) MMTVD, V köt, 180 sz, 211-212 old; 181 sz, 213 old.

5) MMTVD, V köt, 186 sz, 218 old. ここに見られるように、多くのタナーチは、タナーチによる権力獲得ではなく民主主義政府が自分たちの要求を代弁してくれると考えていた。

6) MMTVD, V köt, 195 sz, 224 old.

7) 国民会議は、カーロイの率いる独立と48年党、ヤーシのブルジョア急進党、社会民主党の三党の連合によって形成され、国家の民主的改革と講和をめざした。

8) Károlyi Mihályné, *Együtt a forradalomban, emlékezések*, Bp., 1967, 444 old.

9) MMTVD, V köt, 242 sz, 278-280 old.

開かれ、講和、人民政府、被抑圧民族の完全な自治と解放をめざして、労働者タナーチの形成と代表の選出が呼びかけられた<sup>10)</sup>。これに応じて、首都の工場・職場で、労働者タナーチ、職場タナーチ *üzemi tanácsok* が相継いで形成された。

同日、各地でのタナーチの形成を基礎に、首都の労働者大衆はデモを開始した。デモ隊の数は最初の3,000~4,000人から急速にふくれあがり、通りにあふれ出した。やがてデモ隊は、革命的社会主義者 *Forradalmi Szocialista* のコルヴィン *Korvin Ottó* をはじめとする兵士タナーチの指導によって各地で武器を取り始めた。武装したデモ隊は、兵士タナーチの指導の下に、電話局、首都軍事司令部、郵便局、軍需倉庫、橋、銀行、鉄道、その他の公共機関を次々と占拠していった。首都は制圧された。デモを鎮圧するため召集された軍隊は、軍内部に革命を支持する動きが現われ、機能し得なかった。10月31日、権力は平和的に国民会議に移譲された。民主主義革命は、兵士・労働者タナーチと労働者大衆の力を背景に遂行されたのである<sup>11)</sup>。

〔3〕民主主義革命の達成以降、諸タナーチは組織化される一方、政府の下に置かれて穏健化していった。首都ではブダペシュト労働者タナーチが工場労働者に大きな影響力を持ち、その下に全国的な地域 *helyi* 労働者タナーチ、職場 *üzemi* 労働者タナーチが形成された。しかしブダペシュト労働者タナーチの主導権は社会民主党指導部が、地域労働者タナーチと職場タナーチの主導権は社会民主党支部および労働組合が、それぞれ掌握していた。全体として労働者タナーチは新しく形成された連合政府 *Koalíció Kormány* の下に管理されることとなった<sup>12)</sup>。政府は当初、ブダペシュト兵士タナーチに関しては、これを武装解除し、解散させようと試みた。なぜなら兵士タナーチは、革命的社会主義者、左派社会主義者に主導権を握られており、労働者タナーチ以上に急進的であったからである。しかしこの計画は実現しなかった。政府は地方の兵士タナーチについても、解散を企てたり、まだ兵士タナーチが形成されていない地域では形成を妨げようとした<sup>13)</sup>。一方、社会民主党は、独自に兵士タナーチの指導権を握ろうと望んだ。しかし兵士タナーチは、左派社会主義者 *ポガーニ Pogány József* らの指導と左派の影響力の増大によってますます急進化していった。この頃ロシアから帰国した、クン *Kun Béla* をはじめとする共産主義者は、11月後半、社会民主党内外に共産党形成の呼びかけと打診を行っていたが、11月24日、これに応じた社会民主党左派のメンバー、革命的社会主義者のグループと合併して、「ハンガリー共産党 *Kommunisták Magyarországi Pártja*」を形成した。党は、左派社会主義者、革命的社会主義者、ロシア帰りの共産主義者らの合同からなっていた。新中央委員16名中、ロシア帰りの共産主義者6名、左派社会主義者8名、革命的社会主義者2名であり<sup>14)</sup>、ロシア帰りの共産主義者は多数派ではなかった。新しい共産党は、まず兵士にむけて、プロレタリア革命のための闘いと各地での兵士タナーチの形成と強化とを訴

10) MMTVD, V köt, 243 sz, 280-281 old.

11) この経過は *Az Újság* (自由主義的な日刊紙) 1918 október 31 および *Világ* (ブルジョア急進党機関紙) 1918 november 1 に詳しく叙述されている。

12) *Népszava*, 1918 november 5.

13) MMTVD, V köt, 274 sz, 316-317 old.

14) *Népszava*, 1918 november 5.

15) *Siklós András, Magyarország 1918-1919, Események, képek, dokumentumok, Bp., 1978, 191-*

えた<sup>16)</sup>。もともと帰還兵士を中心に形成された兵士タナーチは、こうした状況の中で、左派、共産党の影響をますます強めていった。

一方農村では、村タナーチ *falusi tanács* が形成されたが、これは完全に連合政府の管理下にあった。同時に、大土地所有関係に規定された農村は、旧体制を温存させる性格を強く持ち、貧農から中農までの層によって形成された一部のタナーチ以外は、依然として保守的なものであった。貧農、中農層により形成されたタナーチは、特にショモジ県や南部のチョングラード県、チャナード県およびクンシャーク地方に多く、これらの地域では、タナーチと農民は、土地分割および農民の権利擁護を要求して運動をおこした<sup>17)</sup>。こうした運動にも、左派および共産党の影響力が徐々に浸透していった。

〔4〕1919年に入ると、民主主義政府は、内政・外交の政策の失敗が続き、政府内・外の批判が高まる中で崩壊の危機を迎えた。これに対し政府は、社会民主党閣僚の増加と、小農業者党 *Kisgazda Párt* 党首ナジャターディーサボー *Nagyatádi-Szabó István* の入閣によるベリンケイ *Berinkei Denés* 新内閣の成立によって危機を回避しようとした。この措置は、土地分割を執行しない政府に対して高まる農民の不満を緩和し、急進化しつつある大衆の要求に一定の譲歩を示そうとするものであった。政府危機の中で、大衆運動や共産党、右翼 *MOVE* (祖国防衛軍同盟) 等左右の反政府活動が盛り上がった。また2月16日に出された土地改革法への不満と反発により、農民運動も活発化した。

そのような状況の下で、地方の主要都市では労働者タナーチが、政府の統制力を無視し、次々と地方行政権を掌握し始めた。彼らはタナーチ大会の開催を要求した。農村ではタナーチの指導の下に、大所有地の占拠、分割が行なわれ始めた。2月末、ショモジ県の農業労働者は、県庁所在地カポシュヴァールの労働者タナーチの指導によってタナーチ共和国樹立以前に大所有地を占拠し、いくつかの生産協同組合を樹立するに至った<sup>18)</sup>。こうして旧エステルハージ *Esterházy* 領地の44,000ホルド(1ホルド=0.57ヘクタール)、ヤンコヴィッチ *Jankovich Bésán Endre* 伯領地の12,000ホルド、セーチェーニ *Széchényi Bartalan* 領地の11,000ホルドの大所有地が、地方労働者タナーチの指導の下に、農村労働者の共同所有、農業株式会社 *Mezőgazdasági Iparrésztársaság* の農場に、強制的に移譲された<sup>19)</sup>。

ベーケーシュ県では、3月に入ると「自主的な土地の占拠は日課」となった。これを指導するタナーチも即時の土地分割を要求した<sup>20)</sup>。チャナード県でも土地の占拠が行なわれた。共産党機関紙『赤色新聞 *Vörös Újság*』は、アソードの農民の運動を次のように伝

192 old. なおハンガリーの50年代の史料集では共産党形成は11月20日となっているが、(Dokumentumok a magyar Párt történetét tanulmányozásához, II kötet, 1917 november–1919 augusztus, Bp., 1954, 14 sz, 63–64 old.) 最近の史料集、年代記、著作では11月24日に訂正されている。Új erők születése, A Magyarországi munkásmozgalom történetének kronológiája, 1868–1919, Bp., 1979 491 old; Siklós András, Magyarország 1918–1919, 191 old.

16) *Vörös Újság* (共産党機関紙), 1919 január 4; MMTVD, V kötet, 363 sz, 385 old.

17) *Földmunkás és szegényparaszt-mozgalmak Magyarországon, 1848–1948*, II kötet, Budapest, 1962, 547, 557 old.

18) *Útmutató a Latinca Sándor emlékmúzeum, "Somogy megye munkásmozgalmának 100 esztendeje" kiállításához, Somogy megyei Múzeumok Igazgatósága, 1969, 50 old.*

19) *Népszava*, 1919 február 26.

20) *TAGYOB*, 2/18, 2/18 a. Békés megye.

〈ハンガリー・タナーチ共和国期のハンガリー〉 県区画は、1914年の行政区画による



出典：Magyarország története VII, Bp, 1978, 32 old.

えている。「アソードの労働者タナーチ（ここでは社会民主党と共産党は共同している）は、次のことを決議した。ショッスベルゲル Schossberger 男爵の領地 5,100 ホルド、ハトヴァニの領地 9,500 ホルドを、買いあげ金 megváltás なしに、また社会民主党が規定した土地分割の規則によることなしに社会化すべし。…これに従って 3 月 18 日（パリ・コミューン記念日）、アソード、カルタル、バクシュ、ヘーヴィーズでは、武装した人々がショッスベルゲル男爵の所有地を…取り上げてしまった<sup>21)</sup>。」

こうして労働者タナーチの指導によって地方での運動が高まる中で、いくつかの県、市において行政権力が掌握された。ショモジ県では 3 月 10 日、共産主義者ラティンカ Latinca Sándor らの指導の下に、カポシュヴァールの労働者タナーチ指導部が県の行政権力を掌握した<sup>22)</sup>。共産党勢力の強いセゲドでも、3 月 9 日から市行政権力の獲得をめざして共産党の指導によるデモがおこされた。政府はこれに対し、3 月 12 日、社会民主党指導者ベーム Böhm Vilmos を司令官とする海軍特別隊を派遣し、軍隊監視の下で社会民主党指導下の労働者タナーチに行政権が譲り渡された<sup>23)</sup>。3 月 14 日にはセクスアルドの労働者のデモを発端として、トルナ県の行政権力が労働者タナーチ指導部によって掌握された。キシクンフェーレジハーザでも、郡および市の労働者タナーチが行政権を握った。3 月 19 日、ハンガリーの重要な工業都市ミシュコルツの労働者タナーチがボルショド県の行政権を握った<sup>24)</sup>。ベーケーシュ県でも政府機関は労働者タナーチに行政権を移譲せざるを得ない状況に追い込まれた<sup>25)</sup>。

このように地方の各県でタナーチが次々と権力を掌握してゆき、首都でタナーチに権力が移譲されるのは時間の問題となっていた。連合政府農業大臣ブザ Buza Barna は後に次のように語っている。「こうしたでき事は、政府の状況をもはや全く動きのとれないものとした。各地で放逐された行政機関はもはや取り戻すことは不可能であった。なぜなら軍隊さえも既に我々の側にはなかったからである<sup>26)</sup>」このように、タナーチ権力の成立は、ハンガリーではまず周辺の工業県・農業県において準備されていたのである。

以上、ハンガリーにおけるタナーチの形成から民主主義政権下でのタナーチ組織の成長までを概観してきた。急進的労働者らによってまず各工場・職場単位で形成されていった諸タナーチは、民主主義革命達成以降、民主主義政府、特に社会民主党指導部の管理の下に組み込まれた。しかし兵士タナーチは左派の影響の下にあり続けた。1918 年秋の共産党の形成と政府の内外政策の失敗、特に農業政策の不徹底を契機として、1919 年に入り、地方のタナーチの間に急速に自立的機運がもり上がった。こうした中でタナーチは次々と各都市で行政権力を掌握していった。地方諸県の農業労働者は、タナーチの指導によって土

21) Vörös Újság, 1919 március 20.

22) Útmutató a Latinca Sándor emlékmúzeum, 34 old.

23) Világ, 1919 március 15.

24) Népszava, 1919 március 16; Vörös Újság 1919 március 20; MMTVD, V köt, 690 sz, 668 old.

25) Két forradalom fényei, Adalékok a Gyulai munkásmozgalom történetéhez, 1918-1919, Gyula, 1979, 22-23 old.

26) Buza Barna, A Kommunista összeesküvés, Hogy Kezdődött a zsványdiktatúra? Kommunizmus vagy földosztás?, Bp., 1919, 23 old.

地を占拠し、ショモジ県では生産協同組合が設立された。このように、民主主義政権下でタナーチが全国的な拡がりを持つ運動に発展していったことが、タナーチ共和国を樹立させる下からの圧力となったのである。タナーチ共和国は、決してロシア革命およびロシア帰りの共産主義者らの外からの影響力だけではなく、ハンガリーにおける国内の諸問題と諸タナーチの運動の結果として提起されたのである。

## II 章 革命政府および連邦中央執当委員会

民主主義政権は、内政・外交における政策の破綻と、タナーチを中心とする大衆運動の圧力によって、カーロイを大統領にのこしたまま、より急進的な政策をとりうる社会主義政権への移行と現政府の退陣をせまられた<sup>1)</sup>。しかし単独で社会主義政権を担うには大衆的支持基盤が充分でないと判断した社会民主党<sup>2)</sup>は、3月21日夜、2月の一斉検挙によって逮捕され監獄に拘留されていた共産党指導者の所へ赴き、党の合同と政権担当を申し入れた。共産党が提出した合同綱領を社会民主党が承認することによって、2党は合同し、「ハンガリー社会党 Magyarországi Szocialista Párt」を形成した。こうして同日夜10時、新社会党によって「革命政府 Forradalmi Kormányzótanács」成立が宣言されたのである<sup>3)</sup>。

ここではまず、こうして形成され、以後全国タナーチ機構の要となる革命政府、および1919年6月中旬に開かれたタナーチ全国大会(TOGY)で選出された「連邦中央執行委員会 Szövetséges Központi Intéző Bizottság」の機構と役割を明らかにしておきたい。

〔1〕 革命政府はタナーチ全国大会が開かれるまでの期間、全タナーチ組織を指導し方針づける役割を負っていた。革命政府は同時に、第1回社会党大会が開かれるまでの間、党

1) 民主主義政権退陣の理由についてはさまざまに論じられている。しかし、退陣直後のパリ講和会議における各国首脳諸発言、その後の欧米諸国の研究が主張しているような、1919年3月20日のヴィクス通牒がカーロイ政権崩壊の最大要因とする主張は、現在のハンガリー史学の研究ではほとんど見られない。彼らの主張は以下の点にある。(1). 内政・外交の破綻と国内の大衆運動の急進化が民主主義政権継続を不可能にした。早晩、政府の退陣あるいは転覆は必至であった。(2). 故に、民主主義政府閣僚は、大衆の反感を抑え、大衆の基盤を持ちうる社会主義政権への移行が必要だと考えた。(3). ヴィクス通牒は、「政権転換を早め、かつ平和的に行なわせる触媒」であった。Hajdu Tibor, *Az 1918 októberi polgári forradalom és a Tanácsköztársaság története kutatásának újabb eredményei /referátum/, A Magyarországi Tanácsköztársaság 50 évfordulója, Nemzetközi tudományos ülészak, Bp., 1970, 27 old; Siklós András, *Mi történt március huszonegyedikén?, Párttörténeli Közlemények*, 1970, 4 sz, 91-92 old. こうした視点がある程度踏まえ、かつロシア革命によるヨーロッパ勢力均衡の崩壊と合わせて「カーロイ政権→社会主義政権」の移行を説明したものに、Peter Pastor, *Hungary between Wilson and Lenin*, New York, 1976. がある。*

2) 社会民主党の単独政権構想は、1918年12月末から民主主義政府の議事日程にのぼっていた。Ministertanács, k. 27, 1918 december 11. 当初この構想は民主主義政府を強化、継続させる目的を持つものとして考案された。その後国内における左派の影響力の増大、西欧列強のハンガリーに対する態度の硬化の中で、社会主義政権構想の必要性はますます強まったが、1919年3月20日の時点に至るまで、「民主主義政権の枠内」における社会民主党単独政権、という視点はカーロイによって保持され続けていた。Ministertanács, k. 27, 1919 március 20. これについての詳細な実証研究は、Siklós András, *Mi történt március huszonegyedikén?*, 75-133 old. を参照。

3) MMTVD, V köt, 708 sz, 685-686 old; 709 sz, 688-689 old; Vörös Újság, 1919 március 22. 新社会党形成に署名した指導者は、社会民主党から5名、共産党から8名(旧左派社会主義者3名、ロシア帰りの共産主義者5名)であった。Siklós, *Dokumentumok*, 254-255 old.

指導部としての機能も代行した<sup>4)</sup>。ハンガリーではこのように国家機関と党指導部の区別がタナーチ共和国の全期間を通して曖昧なままであり、かつ、ソヴェト・ロシアと異なり実際には常にタナーチが党をも指導するという形態をとった。この傾向は後に見るように末端組織になる程顕著となる。

革命政府は、政府とハンガリー社会党の名で、3月22日、「すべての人へ Mindenkihez!」というアピールを發布した。宣言は、クンと左派社会主義者ポガーニによって起草されたもので、プロレタリア独裁が、プロレタリアートの完全な統一によって遂行されたこと、権力は革命政府が執行すること、政府は全国に労働者・兵士・貧農タナーチを設立すること、これらタナーチの独裁が、立法・行政・司法の権力を行使すること、を謳っている。また、土地の生産協同組合化、全世界の労働者の共同闘争を訴えている<sup>5)</sup>。

1919年3月24日、革命政府は34名の人民委員を選出した。その内訳は、社会民主主義者19名（うち右派6名、中央派8名、左派5名）、共産主義者13名（うち左派社会主義者・旧社会民主主義者左派5名、ロシア帰りの共産主義者5名、革命的社会主義者他3名）、無党派2名であった<sup>6)</sup>。ここで見るように、革命政府の圧倒的多数は社会民主主義者によって占められており、ロシア帰りの共産主義者は、少なくとも数の上では少数派であった。

革命政府は、英・独・仏・ルーマニア・チェコ語で、全世界の労働者にむけて、ハンガリー・タナーチ共和国を支持し、この革命に呼応するよう訴えた<sup>7)</sup>。政府は内政においては、赤軍・革命裁判所の設立と、工場・銀行および土地の社会化を遂行し<sup>8)</sup>、地方のタナーチを中心に生産協同組合の形成と地方経済の統制を計った<sup>9)</sup>。

革命政府はその実践を、地域および職場のタナーチ機構の活動に負っており、故に地域タナーチの役割を重視していた。3月22日の『赤色新聞』では、プロレタリアート権力の課題として、1. 支配階級の利益を代表していた官僚制を廃止すること、2. 「生産」を旧支配階級から奪い取り、組織すること（まず土地、工場、鉱山を労働者のものとする）、を提示し、そのために労働者自身が立ち上がらなければならないことを示している<sup>10)</sup>。また革命政府外務人民委員となったクンもタナーチの役割を重視しており、労働者を権力機関へ導入する必要性を強調して次のように述べている。「あらゆるタナーチのメンバーを国家機構に参加させなければならない。あらゆる責任ある地位にプロレタリアートやタナ

4) Kormányzótanács, 601 f., 1/1 a 6e., 1919 március 22.

5) Vörös Újság, 1919 március 22.

6) MMTVD, VI köt, A, 1959, 2 sz, 4-5 old; MMTVD, VI köt, B, 1960, névmutató 650-690 old. より算出。ただし左派、中央派、右派の区別は必ずしも明確でなく、研究者あるいは研究書の発行年により、区分に若干の差が見られる。MT, VIII, 261 old; Hajdu, Tanácsok, 157-158 old. なお人民委員の34名中、知識人が14名、労働者出身（多くが党活動家）が12名で、知識人が労働者を上まわっていた。また人民委員の多くがユダヤ人であった。

革命政府は、内務、農業、軍事、司法、食糧供給、教育、外務、労働福祉、財務、社会化（4月3日より社会生産）、商業（4月3日には廃止）、ドイツ人問題、ルテニア人問題、の人民委員からなっていた。Kormányzótanács, 601 f., 1/1 a 6e., 1919 március 22, 1/7 6e., április 3.

7) Vörös Újság, 1919 március 23.

8) Kormányzótanács, 601 f., 1/2 a 6e., 1919 március 25; 601 f., 1/3 6e., március 27; Kormányzótanács rendeletei, I füz., XXXVIII sz, 44 old.

9) Kormányzótanács rendeletei I füz., XL sz, 46 old.

10) Vörös Újság, 1919 március 22.

ーチのメンバーを配置しなければならない。プロレタリア国家を管理する職に、全労働者大衆、全プロレタリアートを積極的に採用しなければならない<sup>11)</sup>。」クンの主張は、裏返してみれば、実際には旧体制の官僚層が一掃されていなかったことを示唆してもいる。しかし、ハンガリーの革命政府が、権力獲得以前のタナーチの運動と成果を踏まえて、ソヴェト・ロシアに比してより迅速にタナーチによる自主的な権力の確立を目ざしていたことは明らかであろう。

〔2〕 1919年6月14～23日に開かれたタナーチ全国大会は、全タナーチの代表として、連邦中央委員会（以下 SZKIB と略す）を選出した<sup>12)</sup>。連邦とは、ハンガリー共和国が、各地域のタナーチの連合体であるとともに、ウクライナ、スロヴァキアなど諸民族のタナーチの連合体として形成されることを意味している。即ち、「ハンガリー社会主義連邦タナーチ共和国 Magyarországi Szocialista Szövetéges Tanácsköztársaság」の形成が目ざされたのである<sup>13)</sup>。SZKIB は、大会から次の大会までの間、タナーチ全国大会で決定された課題を執行する任務を負っていた。SZKIB は150名からなり、労働者が $\frac{1}{2}$ 、知識人、事務員が $\frac{1}{3}$ を占めていた。SZKIB は、首都から80人、地方から70人のメンバーによって形成されていた<sup>14)</sup>が、農民の比率は少なかった。タナーチ全国大会では、タナーチが革命政府を選出するという権利を要求する意見が出されたが、これは採択されず、SZKIB が革命政府を選出するという2段階制を取る事となった<sup>15)</sup>。

1919年6月24日、SZKIB の第1回大会が開かれ、新しい革命政府が選出された<sup>16)</sup>。この新政府は妥協案によって生まれたものであった。タナーチ全国大会に先立つ全国党大会で、社会民主主義者右派・中央派と、共産主義者・社会民主主義者左派との間の対立が表面化し、党名は、妥協の現われとして「ハンガリー社会主義・共産主義労働者党 a Szocialista-Kommunista Munkások Magyarországi Pártja」と改められた<sup>17)</sup>が、この対立は新革命政府にも反映した。首相には社会民主主義者中央派のガルバイ Garbai Sándor がとどまったが、共産主義者の急進的政策に批判的な中央派のクンフィ Kunfi Zsigmond 社会民主主義者右派・中央派に極端主義者として攻撃されていた共産主義者のサムエリ Szamuely Tibor が革命政府から退いた。その結果、新革命政府は13名中左派が3～4名、共産主義者が4名となり、全体として左派が安定多数を得た<sup>18)</sup>。

しかし右派と左派との調停役であったクンフィが退陣したことは、サムエリの排除にも

- 11) Vörös Újság, 1919 május 17. 彼は軍隊に関しても、階級的抑圧の官僚的軍隊の廃絶を訴え、これを継承しないよう警告している。Vörös Újság, 1919 május 25.
- 12) TOGY, 600 f., 1/3 őe., 1919 június 23; SZKIB. 600 f., 2 cs., 1 őe, névsora.
- 13) ハンガリー社会主義連邦タナーチ共和国憲法第3条には、「タナーチ共和国は自由な人民の自由な連邦である」と記されている。A Magyarországi Szocialista Szövetséges Tanácsköztársaság Alkotmánya, TOGY, 600 f., 2 cs., 1 őe, 1919 június 23.
- 14) A SZKIB tagjainak névsora, SZKIB, 600 f., 2 cs., 1 őe.
- 15) SZKIB, 600 f., 2 cs., 1 őe. SZKIB 組織規約。これについてハンガリー研究者ビハリは、革命政府は全国タナーチ大会で選出されたわけでも、SZKIB にすべての問題を報告する義務を負っていたわけでもなかった、故にタナーチ共和国はプロレタリアートの独裁ではなく革命政府の独裁であった、と指摘している。Bihari Ottó, Alkotmány és államszervezet a Magyar Tanácsköztársaságban, *Jogtudományi Közlöny*, 1969, június hó, 279 old.
- 16) Kormányzótanács névsora, SZKIB, 600 f., 2 cs., 2 őe., 1919 június 24.
- 17) Népszava, 1919 június 19.
- 18) SZKIB, 600 f., 2 cs., 1919 június 24.

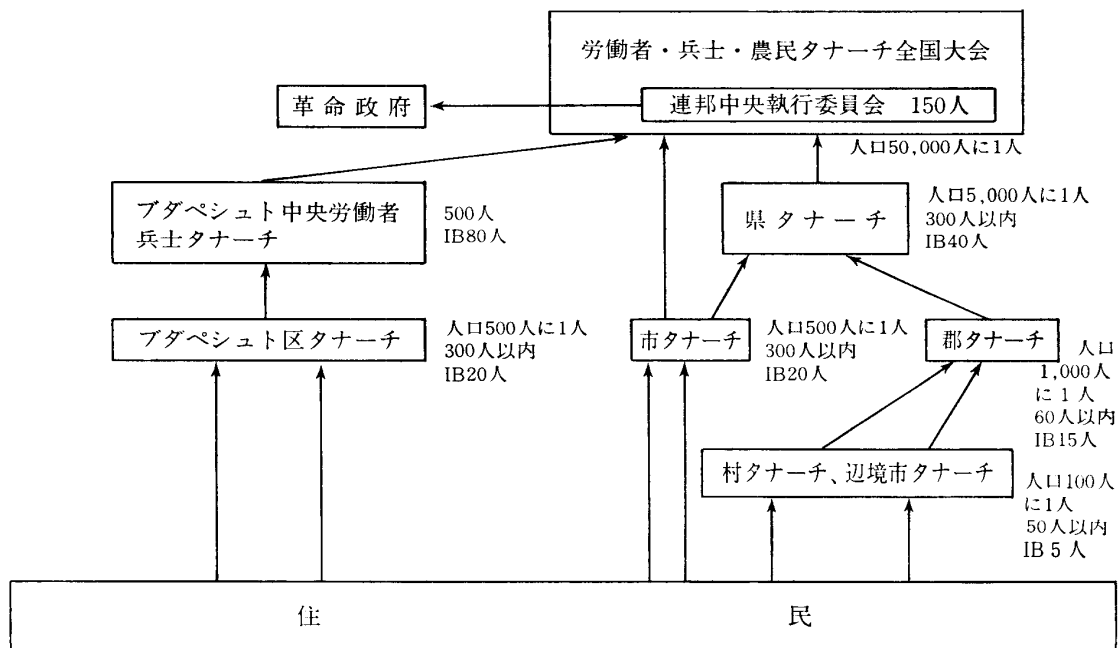
かかわらず、右派の不満を收拾しえない結果を招いた。全国タナーチ大会以降、右派は再び社会民主党単独政府を樹立する構想を推し進め始める。革命政府の危機に至った時、社会民主主義者右派・中央派は、革命政府延命の方向ではなく、政府を社会民主主義者右派にゆずり渡すことによって、連合国の支持を取りつけ、ハンガリー社会主義政権を守ろうとするのである<sup>19)</sup>。

以上のように、2党の合同によって形成された革命政府は、常に党内・政府内の左派と右派の対立と妥協で揺れ動いていた。しかし政府がタナーチの役割を重視し、タナーチによる権力の遂行によって国家を運営しようと考えていたことは明らかである。SZKIBの会合には、クン、ウェルトナー Weltner Jakab など革命政府のメンバーが繰り返し訪れ、外交状況、国際プロレタリア革命の重要性と赤軍の組織化、労働者タナーチの強化再建、統一の重要性について、報告や訴えを行なっている<sup>20)</sup>。

このような問題を受けとめ、遂行すべきタナーチ組織はいかなるものであったのだろうか。次に、タナーチ選挙、タナーチ組織について考察してゆきたい。

### III 章 全国タナーチ選挙

ここでは、実際にハンガリー全国に形成されたタナーチ組織の機構と実態を可能な限り把握するため、1919年4月に行なわれたタナーチ選挙 Tanácsválasztások を分析する。



〈タナーチ共和国におけるタナーチ機構〉 IB: 執行委員会

19) 7月17日の革命政府会議でベームのウィーン行きが承認された後、政府閣僚内右派ベームは、ウィーンの社会民主党政府に赴き、パリ講和会議に対して、ハンガリーに新しい社会民主政権を樹立することによって、講和と、ハンガリーの崩壊を阻止する承認をとりつけようと試みた。Kormányzótanács, 601 f., 1/32 a, 1919 július 17, 9 sz.; Wilhelm Böhm, *Im Kreuzfeuer zweier Revolutionen*, München, 1924, SS 497-498. 同日の革命政府会議は、タナーチ共和国樹立以降党を離れていた旧社会民主党書記ブヒンゲル Buchinger Manó のウィーン行き(亡命)をも許可している。

20) SZKIB, 600 f., 2/2 őe., 1919 június 30; 2/3 őe., július 15.

〔1〕 タナーチ選挙の選挙権および選挙規則については、4月2日に発布されたハンガリー・タナーチ共和国臨時憲法 *Ideiglenes Alkotmány* に規定されている<sup>1)</sup>。まず、憲法の規定に則して、タナーチの組織について概観しておこう。

タナーチ組織は図のように、下からピラミッド型に代表を選出していく仕組みになっていた。住民から直接選出されるのは、ブダペシュト各区タナーチ *kerületi tanácsok*、市タナーチ *város tanács*、および村タナーチ *falu tanács*、辺境市タナーチ *határosváros tanács* であり、これらは図のような人口比率で選出された。

郡タナーチ *járási tanács* は、村タナーチ、辺境市タナーチ、市タナーチからそれぞれ人口1,000人に1人の割合で選出された。県タナーチ *megyei tanács* は、県内の郡・市タナーチから、人口5,000人に1人の割合で選出された。県内で自治権を持つ市 *törvényhatósági jogu város* も県タナーチにメンバーを送ることができた。

ブダペシュト中央タナーチは、ブダペシュト各区タナーチから人口比率に従って500人のメンバーが選出された。

各タナーチはそれぞれ執行委員会 *Intéző Bizottság (IB)* を選出した。それぞれの執行委員会の人数は図のとおりである。

国家の最高機関である「労働者・兵士・農民タナーチ全国大会 *Munkás-, Katona- és Földművelésztanácsok Országos Gyűlés*」のメンバーは、県および市タナーチから選出された。ブダペシュト中央タナーチの執行委員会メンバー80名は、同時に労働者・兵士・農民タナーチ全国大会のメンバーとなることができた。県および市タナーチは、人口5万人につき1人のメンバーをタナーチ全国大会に送ることができた。県、市タナーチは全国大会開催を要求しうる権利を持っていた。

郡タナーチは、タナーチ共和国のタナーチ機構の下で新しく形成された組織である。郡タナーチの存在によって本来市タナーチと同位置に置かれるべき村タナーチは、中央への経路が一段下がっている。これは一方では、農村の綿密な組織化、地方自治の発展を促すものであった。しかし他方では、農村や辺境市（他民族住民の多い地域）に対する革命政府の警戒を示していたとも言える。農民の多い村タナーチから形成される郡タナーチは、労働者が相対的に多いと考えられる市、ブダペシュト区タナーチに比べて、人口比率で選ばれるメンバーの数が $\frac{1}{2}$ に抑えられていること、また県、市タナーチはタナーチ全国大会に送るメンバーを選出でき、全国大会開催を要求する権利を持っているのに対し、郡タナーチはそのどちらの権利も持っていないこと、などからも、郡タナーチが必ずしも積極的意図だけで作られたのではないことをうかがわせる。これは選挙結果とも関連してくる問題である。

次に選挙権、被選挙権について見てみよう。タナーチ選挙は普通選挙ではなかった。原則的には18歳以上の勤労者男女に選挙権・被選挙権が与えられたが、次の人々は参政権を持たなかった。a). 利益を得る目的で賃金労働者を雇用する者、b). 労働以外の収入に

1) 臨時憲法はタナーチについて次のように始めている。「勤労者人民は、労働者・兵士・農民タナーチにおいて、法を作成し、執行し、これを犯すものを裁く。…ハンガリーのプロレタリア独裁は、タナーチ全国大会と地域の労働・兵士・農民タナーチによって遂行される。」*A Magyarországi Tanácsköztársaság Ideiglenes Alkotmánya, Kormányzótanács rendeletei, I füz., XXVI sz., 33-37 eld.*

よって生活する者, c). 商人, d). 聖職者, e). 精神病者および監視下にある者, f). 政治犯として逮捕, 勾留されている者<sup>2)</sup>。すなわち貴族, 大・中土地所有者, 聖職者, 中・小工場主等は厳重に退けられたのである。投票権を持ち得る土地所有者の上限は, 土地の用途, 肥沃度に従って地域ごとに決められた。民族差別はなかったが, 辺境市に住む非ハンガリー民族は, 農村と同様, 郡タナーチには市タナーチの  $\frac{1}{2}$  の代表しか送ることができなかった。しかしハンガリー・タナーチ共和国では, ドイツ人, ルテニア人は民族自治を認められ, 各民族のタナーチ機構を形成していた<sup>3)</sup>。

この結果, 全人口 900 万人の約半数 400~500 万人が選挙権を得た。これは従来の二重王国の選挙制度に対して求め続けてきた普通選挙ではなかったが, ハンガリーで初めて遂行された広範な大衆が参加しうる選挙であった。

〔2〕 以上の規定の下に, 1919 年 4 月初め, 各地域タナーチの選挙が一齐に行なわれた。革命政府は, タナーチ選挙に関して, 村, 市タナーチは 4 月 7 日まで, 郡タナーチは 10 日まで, 県タナーチは 12 日まで, タナーチ全国大会メンバーは 14 日までに選出するよう布告した<sup>4)</sup>。選挙は, 各地域の労働者タナーチおよびハンガリー社会党が臨時憲法の規定に基づいて作成したリストを選挙の数日前の大会で公表し, そこから代表を投票によって選出する, という形態をとった<sup>5)</sup>。選挙当日は, 多くの市, 村で, 組織的, 自発的な祭の雰囲気の中で行なわれ, 大多数の地域では, 公表リスト中の多くのメンバーが選出された。いくつかの県の選挙地域では, プロレタリア独裁に反対する大土地所有貴族, 旧体制地方国家官僚などが連携して対立リスト, 対立候補をたてたが<sup>6)</sup>, こうした対立候補者が当選することはまれであった。より多かったのは, こうした反政府的要素を持った人物が, 地域によっては公式リストに載り, 選出されるというケースであった<sup>7)</sup>。これについては後のタナーチの職業の所で見ることとする。

選挙結果の一部は表のようである。まず都市部, 特に工業都市では, 全人口の半数, すなわち有権者資格を持つほとんどが投票を行なっている。しかし, ジュラ, センテシュ, ベーケーシュチャバなど農業地域では必然的に有権者資格を持つ労働者・農民の率が減ると考えられ, 必ずしも対有権者比の投票率が工業都市に比べて少ないとは言い難い。

同様のことは農業県下の選挙についても言える。チャナード, ヴェスプレーム, マラマロシュの各県はそれぞれハンガリー南, 西, 東部の農業県で, 他の諸県に比して一部で低い投票率を示した県であった。このことは, これらの地域で反政府の妨害があったこと, 新政府に対する関心と支持が全国に及んではいなかったことを示している。しかしより大きな原因として, 農村では有権者資格を厳しく制限したことをあげなければならない。ソ

2) Kormányzótanács rendeletei, U. o., 19 §, 35-36 old.

3) Kormányzótanács rendeletei, U. o., 2 §, 33 old.

4) Kormányzótanács rendeletei, I füz., XXVII sz., 37 old.

5) リストには氏名, 職業のほか, 既婚・未婚の別, 子供数, 所有地面積, タナーチ・メンバーかどうかなどが書き込まれた。MMTVD, VI köt, A, 164 old. ハンガリー・タナーチ共和国ではロシアのような政党選挙は行なわれなかった。もし政党選挙が行なわれていれば, 社会党が第一党になれたかどうかは疑わしい。

6) Ki a jövőnek vet magot..., Szombathely, 1978, 11 old; MMTVD, VI köt, A, 167 sz., 165 old.

7) MMTVD, VI köt, A, 167 sz., 165 old.

都市・農村における選挙投票数<sup>8)</sup>

## 都 市

市	投票人口	全人口に対する 投票人口比率 %	市	投票人口	全人口に対する 投票人口比率 %
キシュペシュト	23,000	50	エゲル	10,000	33
ナジヴァーラド	38,000	42	ツェグレード	10,000	30
デブレツェン	40,123	40	ミシュコルツ	16,509	30
セゲド	41,000	35	ジュラ	5,635	23
ザラエゲルセグ	3,814	35	センテシュ	4,750	15
ナジカニジャ	11,283	33	ベーケーシュチャバ	6,145	14

## 農 村

市・村	人口	投票人口	全人口に対する 投票人口比率 %	市・村	人口	投票人口	全人口に対する 投票人口比率 %
チャナード県				ヴェスプレーム県			
ケヴェルメシュ	2,625	1,044	40	アルショーゲルジェニ	372	131	35
アンブローズファルヴァ	1,042	327	31	ニャーラド	1,485	480	32
メゼーヘジェシュ	7,972	2,358	30	シヤーリ	1,142	360	32
ドンビラトシュ	1,235	350	28	アダーステヴェル	1,451	330	23
∴	∴	∴	∴	ヴェスプレーム	15,586	2,756	18
マコ	34,918	6,481	19	ロークト	1,802	231	13
バットニャ	13,011	2,319	18	ファルカシュジェピュー	384	48	13
∴	∴	∴	∴	パコーニャーコー	1,700	169	10
チャナードアバーツァ	3,813	207	5	マラマロシュ県			
キラールヘジェシュ	1,078	43	4	テチエ	5,910	2,400	41
キシュイラトシュ	2,210	51	2	コヴァーチレート	1,780	355	20
シヤイテーニ	4,695	2	0.04	ヴェレツケ	2,505	292	12
				ドルハ	3,524	334	9
				スハバランカ	1,575	133	8

ルノク県キシュウーイサーラーシュでは、3ホルド以下の農民にしか選挙権を与えず、5ホルド以上の農民は農業資本家と区別しないという政策をとり、小農の大部分を選挙から締め出した<sup>9)</sup>。また社会主義者・共産主義者の影響力が強く、急進的な農民運動が存在したショモジ県でも、タナーチ候補者は工場労働者か5ホルド以下の土地所有農民に限るとされた<sup>10)</sup>。もう一つの原因は女性であった。タナーチ選挙はハンガリーで初めて女性に参政権を与えたが、旧体制の伝統が崩されていない地方農村では、女性が男性と同権を持つ

8) Vörös Újság, 1919 április 9; Népszava, 1919 április 10, 12; MMTVD, VI köt, A, 163 old; A Debreceni munkásmozgalom története, Debrecen, 1956, 288-289 old; Válogatott dokumentumok Csongrád megye munkásmozgalmának történetéből, Szeged, 1969, 322-323 old; Párttörténeti Intézete Archivum, Belügyi Népbiztosság, 603f, 6/9, 6/23, 6/36; A Tanácsköztársaság Zala megyében, Zalaegerszeg, 1961, 47 old; Két forradalom fényei, Adalékok a Gyulai munkásmozgalom történetéhez, 1918-1919, Gyula, 1979, 33 old.

9) Kiss Kálmán, Kisújszállás 1918-19-ben, Szolnok, 1969, 43-44 old.

10) Belügyi Népbiztosság, 603 f, 6/27. なお以下はハンガリーの階層分布表(1910)である。これを見ると、5ホルド以下の農民は全国の14%ならず、すなわち全人口の約1割足らなくなる。Magyarország története (以下 MT), 1890-1918, VII köt-1, Bp., 1978, 428-431 old.

て投票することは困難であり、実際に選挙に参加した女性は多くはなかったのである<sup>11)</sup>。

ここではむしろ、それにもかかわらず有権者の大多数が投票に参加しているということに注目すべきであろう。前民主主義政権が5ヶ月の政権担当期間中について選挙を実施しえなかった<sup>12)</sup>ことを考えるならば、政権獲得後2週間余りで、全国規模の選挙を実施し、成功したのは驚くべきことであろう。そこにタナーチの自立性、すなわち既にタナーチ政権以前から、各地域の工場・労組などの中から作りあげられたものとしてタナーチ組織が存在しており、政府はその基盤の上に形成された、という事実が明らかになるように思われる。地方における戦前からの社会民主党組織、ロシアからの帰還兵により形成された共産党の影響力も無視できない力であった<sup>13)</sup>が、この各労組・工場における自立組織によって政治を動かす要求がなければタナーチ選挙は実現できなかったであろう。

次に、選出されたタナーチ・メンバーの職業を見てみたい。大きくわけるならば、農業労働者および労働者がそれぞれ  $\frac{1}{3}$  ずつを占めており、その点では労働者・農民タナーチにかなったものであった。労組の組織が強固な所では、それぞれの労組からタナーチ・メ

	人	%		人	%
I 大土地所有者			IV 労働者		
1,000ホルド以上	4,816	0.03	工場労働者	1,851,697	10.1
100-1,000ホルド	50,425	0.27	商業	169,700	0.9
100ホルド以上の小作農	16,184	0.09	交通	432,312	2.4
計	71,425	0.39	農業	4,356,316	23.9
II 小土地所有者, 小作農			日雇	453,377	2.5
50-100ホルド	134,687	0.7	家事労働(チェレード)	405,069	2.2
20-50ホルド	822,912	4.5	軍兵士	88,234	0.5
5-20ホルド	3,511,085	19.2	計	7,756,705	42.5
{ 5ホルド以下	2,437,190	13.4}	V その他		
{ その他の独立農	30,711	0.2}	工場主, 金融家	66,549	0.4
計	6,936,585	38.0	知識人, 役人	770,895	4.2
III 小生産者, ブルジョア 中産階級			サービス業・年金生 活者	339,756	1.9
小工場主(1-5人)	488,229	2.7	その他, 失業者	329,062	1.8
職人(従業員なし)	861,416	4.7			
商人	400,095	2.2	総計	18,264,533	
(その他を含む) 計	1,993,556	10.9			

- 11) 都市部でさえ、ナジカニジャでは11,283人中  $\frac{1}{3}$ , カボシュヴァールでは8,650人中2,236人(26%)しか女性が参加していない。Pál József, Nagykanizsa környéke a forradalmak viharában, 1918-1919, Nagykanizsa, 1968, 48 old; L. Nagy Zsuzsa, Forradalom és ellenforradalom a Dunántúlon, 1919, 71 old. ただし女性がタナーチ・メンバーに選出された例も少なくはない。ベシュト県では県下のタナーチ・メンバー3,168名中, 男3,078名(97.15%), 女90名(2.85%)であった。Pest megye múltjából, Bp., 1965, 324 old. またデブレツェン市タナーチでは, 210名中8名が女性であった。A Debreceni munkásmozgalom története, Debrecen, 1956, 288-289 old.
- 12) 連合政府内務大臣は3月17日の段階で, 4月13日に選挙を行ない, そこで民主主義諸党が外部から援助する形態をとる社会民主党単独政府を樹立する, という計画を提案しているが, 政府の退陣により実現できなかった。Ministertanács, k. 27, 1919 március 17.
- 13) たとえばヴァシュ県ソンバトヘイでは, ロシアでボリシェヴィキとコンタクトを持った社会主義者らを中心に, タナーチ共和国勝利後すぐに, 新政府を支持した臨時執行委員会を設立し, 県組織を整えている。Ki a jövőnek vet magot..., 11 old.

ンバーが選出されたので、メンバーの職業は、その地域の労組の強い職種をも示していた。たとえば、ホードメゼーヴァーシャルヘイでは、124名の市タナーチ中、労働者52名、農業労働者36名であり、労働者中、石切労働者、鉄鋼金属労働者、印刷工、材木労働者が多くを占めた<sup>14)</sup>。デブレツェンでは、210名中、102名の労働者のうちで、鉄鋼労働者、鉄道労働者、建設労働者、材木労働者、印刷工が多数を占めている<sup>15)</sup>。しかしより注意深く見るならば、残り $\frac{1}{3}$ 前後は、知識人、職人、小工場主、事務員などの、いわば小ブルジョアジーあるいは非生産者が占めていた。先のデブレツェンでは、210名中70名を、事務員・職人・知識人が占めているし、センテシュでは74名中23名、ホードメゼーヴァーシャルヘイでは124名中31名、ザラエゲルセグでは24名中8名を知識人、事務員、職人が占めているのである<sup>16)</sup>。

一方農村地域では、貧農・小農出身が約 $\frac{2}{3}$ を占めた。フェイェール県ターツ村のタナーチでは20名中15名、チャークベレーニ村タナーチでは6名中5名を、農業労働者、日雇い労働者、小土地所有者が占めている<sup>17)</sup>。同県ドゥナペンテレでは40名中26名、ソルノク県トゥルケヴェでは28名中15名が土地労働者である<sup>18)</sup>。問題となるのは、一つには領主経営の最下層として労働力を提供していた農業チェレード(定住雇農) *mezőgazdasági cseléd* がタナーチ・メンバーにほとんど選出されていない点である。いくつかの村では急進化したチェレードもあり、たとえばソルノク県トゥルケヴェでは、タナーチおよび党組織の指導的役割をチェレード、土方出身の活動家が果たしてきた<sup>19)</sup>。しかし全体から見て、革命を支持しあるいはタナーチに選出されたチェレードはほとんどいなかったと言ってよい。これはチェレード自身が、領主制の崩壊によって領主制の下で享受しえた僅かな所有物と自分の存在基盤とを失ったため、新政府に否定的であったこと、また政府の側も、チェレードを組織すべき農業労働者の一員とみなしていなかったことが原因であろう。

問題となるもう一つは、タナーチ・メンバーが、労・農・兵タナーチの枠から大きく逸脱していた地域も少なからず存在していた、という点である。先にふれたように、公表リストに反政府的な人物が載せられ、選出されたケースがいくつかある。たとえば、ナジマロシュでは、軍司令官の妻、工場主、聖職者、土地所有者が、タナーチ・メンバーに選出された<sup>20)</sup>。フェイェール県モールでは、土地所有者および土地所有貴族がタナーチ・メンバーに選出された<sup>21)</sup>。「非」労・農・兵タナーチ・メンバーの選出は、単に反政府運動に

14) Válogatott dokumentumok Csongrád megye munkásmozgalmának történetéből, 306-309 old.

15) A Tanácsköztársaság Hajdu-Biharban, 1919, Dokumentumgyűjtemény, Debrecen, 1956, 160 old. 党組織が最もよく組織されているペシュト県では、県下のタナーチ3,168名中、労組メンバーあるいは党員は、2,652名(83.71%)を占めていた。Pest megye multjából, 324 old.

16) A Debreceni munkásmozgalom története, 288-289 old; Szuronyok árnyékában, 1890-1939, Dokumentumok a Szentesi munkásmozgalom történetéből, Szentese, 1969, 31 sz., 1919 április, 69-70 old; A Tanácsköztársaság Zala megyében, 47-48 old.

17) Fejér megyei történeti évkönyv, A Tanácsköztársaság Fejér megyében, Székesfehérvár, 1969, 211 old.

18) Szolnok megye 1918-19-es eseményeiből, Szolnok, 1969, 40 old.

19) Párttörténeti Intézete Archivum, Keleman Imre, Parasztmozgalom Tanácsköztársaság előtt, Turkevei, H-K-247.

20) Népszava, 1919 április 15.

21) Fejér megyei Levéltár, Felvétel Mór község képviselőtestületének rendes közgyűléséről, 1919 április 8.

よって行なわれたとのみ言いきれない側面がある。ハンガリーの近郊県フェイェール県下の全村における1918～19年の村会議事録に目を通すと、ハンガリー王国政府、民主主義政府、タナーチ政府、ホルティ政府に至る時期に、議長ないし書記が変わっていない村が県下の1/3以上を占めている<sup>22)</sup>。エチュクでは、タナーチ選挙において前議会議員が最高得票で再選され、タナーチの側から出された労働者議員は最低得票であった<sup>23)</sup>。このように、タナーチの組織が弱かった地域では、政権が変わっても地方政治の実態はほとんど変化なく継続されていたのである。

旧支配者層、大土地所有者がタナーチ・メンバーに選出された地域に対し、政府内務人民委員ラビノヴィッチ Rabinovics József はタナーチ選挙のやり直しを訴えた<sup>24)</sup>。タナーチ選挙のやり直しはヴァッシュ県を中心に、4月末から5月半ばにかけて行なわれた<sup>25)</sup>が、明白な反政府活動を行なっている者の排除以上の効果はあげられなかった。

以上からタナーチ選挙をまとめると、次のことが言えるであろう。

(1) タナーチ選挙は新政府の発足後2週間余りで行なわれたにもかかわらず、それ以前の自立的運動と組織を基礎として、地方における自覚的な大衆による政治参加という点では十分にその目的を達しえたと言える。

(2) タナーチ・メンバーの職業からは、一方では、ハンガリーの各労組の手堅い組織化、ハンガリーにおける農業労働者の重要性、タナーチにおける知識人の役割、を見ることができ、他方では、職人・小土地所有者の選出の多さや女性の差別に見られる封建的特質の根強さ、一部の地域においては中央権力の影響力を浸透させることの困難さをも、見ることができる。

しかし、タナーチ政権確立後初のタナーチ選挙の勝利は、1919年初めの民主主義政権の危機以降、対立しつつ成長していた左右の反政府運動に一まず決着をつけ、旧封建体制の支持層や反社会主義の運動は一時的に後退を余儀なくされることとなる。

#### IV 章 タナーチ国家機構の運営

次にそれぞれのタナーチ機構の運営について見てみたい。前述の臨時憲法では、タナーチ機構の中央集権制について次のように規定している。「第15条、村、市、郡、県タナーチは、上部タナーチの命令を遂行する。タナーチは、それぞれの地域で生活し働く人々の経済的・文化的福祉をあらゆる場において推し進め、その地域で地域的重要性を持つあらゆるでき事に関与すべきである。」「第16条、執行委員会とその所属するタナーチとは、下部タナーチに責任を持つ。すなわち、県タナーチ執行委員会と県タナーチは郡タナーチ執行委員会と郡タナーチに、郡タナーチは村タナーチ執行委員会と村タナーチに責任を持つ<sup>1)</sup>。」

タナーチ機構は先に示したように、最高機関としてタナーチ全国大会および連邦中央執

22) Fejér megyei Levéltár. ザラ県の一部の村でも同様のことがあった。A Tanácsköztársaság Zala megyében, 50 old.

23) Fejér megyei Levéltár, Etyek, 1919 április 10.

24) Rabinovics Józsei, Tiszta proletár-munkástanácsokat!, Vörös Újság, 1919 május 11.

25) MMTVD, VI köt, A, 167 sz., 165 old.

1) Kormányzótanács rendeletei, I füz., XXVI sz., 35 old.

行委員会が存在し、革命政府の下に、首都ではブダペシュト中央タナーチ、区タナーチ、地方では県、郡、市、村タナーチ、辺境市タナーチがそれぞれ課題を遂行した。

以下、各タナーチの課題と活動を見てゆきたい。

〔1〕〈ブダペシュト労働者・兵士中央タナーチ〉

ブダペシュト労働者・兵士中央タナーチ（以下中央タナーチと略）は、首都の各区タナーチより500人のメンバーを選出して形成され、首都全区の住民に責任を持った。その課題は、首都勤労者との密接な結びつき、勤労者の生活環境の改善、プロレタリア権力の強化、社会主義社会の実現、赤軍の組織化などであった<sup>2)</sup>。中央タナーチは4月11日の第1回大会でレーニンを名誉議長とした<sup>3)</sup>。

中央タナーチは首都の旧都庁舎、旧行政施設を譲り受けた。旧都職員のほとんどはそこで継続して働くことを希望し、受け入れられた。唯一、指導部のみが解任され、タナーチ政権に好意的な人々によって置き換えられた。教職員にはおよそ500人が新しく採用された<sup>4)</sup>。

4月15日、ブダペシュト中央タナーチは80名の執行委員会と5名の議長団を選出した<sup>5)</sup>。80名の執行委員会メンバーは全員SZKIBのメンバーとなることができた。しかし執行委員会、議長団は中央タナーチにおいて必ずしも指導的役割を果たしたわけではなかった。多くの問題は500名の中央タナーチで討議され、決定された。それ以外の細かな地域的な問題は区タナーチで検討され、遂行されていった。

中央タナーチが最重要課題と見なしたものはタナーチと地域大衆との密接な結びつきであった。4月15日の中央タナーチの会議で、クンは次のように述べている。「タナーチと大衆との関係は極めて重要である。あらゆる意味においてタナーチの課題の遂行は大衆から距離を保ってはい不可能である。確かにタナーチは膨大な官僚機構に見えるかもしれない。（だからこそ）タナーチの要求を決して大衆の要求と対立させないよう、留意する必要がある<sup>6)</sup>。」この文章を見る限り、クンはタナーチを大衆から遊離した官僚機構にしないことに、とりわけ注意を払っていた。こうしたクンの態度はタナーチ共和国崩壊まで維持されることとなる。

中央タナーチは各区タナーチと連携しながら課題を遂行した。中央タナーチの課題には、地域住民の生活、労働の改善の問題の他に、首都であるが故に革命政府と協力してやりとげなければならないさまざまな内政問題があった。その問題解決の仕方は、以下に見るように、タナーチ国家を守るという点では革命政府あるいは合同した新社会党よりもより現実的であり、また急進的でさえあった。

まず赤軍形成、国家防衛の問題について見てみよう。これらについては中央タナーチは革命政府を積極的に援助した。政府は3月25日、布告にて、組織された労働者からなる赤軍形成を呼びかけた<sup>7)</sup>。しかし既に諸地域のタナーチは、共和国形成と同時に徴兵を開

2) Budapest Központi M. K. tanács 500-as, 600 f., 3/1 őe., 1919 április 15.

3) Vörös Újság, 1919 április 13.

4) Hajdu Tibor, Tanácsok Magyarországon, 202-203 old.

5) Budapest Központi M. K. tanács 500-as, 600 f., 3/1 őe., 1919 április 15.

6) Budapest Központi M. K. tanács 500-as, 600 f., 3/1 őe., 1919 április 15.

7) Kormányzótanács rendeletei, I füz., XXIII sz., 26-28 old.

始していた。4月中旬、チェコ軍・ルーマニア軍の侵入が開始される中で、4月24日、軍事人民委員会が戦線の状況を報じ、労働者大衆の組織化を訴えて<sup>8)</sup>以来、赤軍の組織化は首都では区タナーチ、地方では村タナーチおよび職場タナーチの指導の下に行われることになった。タナーチはそれぞれの地域・職場でリストを作成し分隊を編成していった<sup>9)</sup>。この頃社会民主主義者の人民委員の一部が、ハンガリーへの他民族軍の侵入を正当化させないために、タナーチ共和国政府の退陣、社会民主党単独政府の樹立を主張し始めた。この提案に対する討議の結果、5月2日、革命政府は現政府存続を決定した<sup>10)</sup>。同日、中央タナーチは圧倒的多数で、タナーチ共和国維持、闘争の強化、戦線への派兵を決議し、動員を開始した<sup>11)</sup>。5月14日までの2週間足らずで44,420人の労働者が志願し、戦線に向かった<sup>12)</sup>。6月18～24日の反政府蜂起の際にも、中央タナーチは政府にさきがけて「プロレタリア独裁防衛のため、あらゆる武器を持って最後まで任務を遂行すること」を決議し、メンバーは現場に直接赴いて反政府運動を鎮圧する作業に加わった<sup>13)</sup>。

地域と直接結びついたタナーチの重要課題である、住居問題、食糧供給問題、文化・教育活動について見てみよう。

中でも住居問題は困難な課題の一つであった。ハンガリーでは20世紀初頭からの都市化現象によって、1910～1919年の間にブダペシュトの人口は10万人以上増加したにもかかわらずその間2,000～3,000の建物しか建設されておらず慢性的な住居不足が蓄積していた。加えて戦争破壊によって住居不足は深刻なものとなっていた。タナーチ共和国では、これらの住居不足を解決する時間も資材も不十分であった。こうした状況の下で、新しい住居の建設・旧住居の改善と平行してタナーチが行なった作業は、労働者への住居の配分であった。7月はじめ、32,410の住居が労働者の家族に配分された。これによって9万人のブダペシュトの住民が住居を得、スラム街問題が部分的に解決された<sup>14)</sup>。住居の配分は労働者、特に子供の多い労働者に優先的に行なわれた。住居配分の問題は、不正防止のため後に区タナーチの管理に移された<sup>15)</sup>。

食糧問題に関しては、背後に食糧地域を持つブダペシュトでは、10月革命期のロシア、同時期のウィーンほど事態は深刻ではなかった。しかし首都への食糧供給は決して十分なものではなかった。すでに首都近郊県、特にドナウ沿岸の諸県、ヴァシュ、ジェル、シヨモジ、トルナの各県からブダペシュトに食糧が運ばれていた<sup>16)</sup>が、政府と中央タナーチは繰り返し首都の食糧問題について討論し、近郊県からの食糧輸送の円滑化を計ろうとし

8) MMTVD, VI köt, A, 303 sz., 305-307 old; A Magyar Vörös Hadsereg (以下 MVH) 1919, Válogatott dokumentumok, Bp., 1959, 43 sz., 152-157 old.

9) Vörös Újság, 1919 április 26.

10) Kormányzótanács, 601 f., 1/17 őe., 1919 május 2.

11) Budapest Központi M. K. tanács 500-as, 600 f., 3/2 őe., 1919 május 2.

12) Népszava, 1919 május 4.

13) Budapest Központi M. K. tanács 500-as, 600 f., 3/3 őe., 1919 június 24; Vörös Újság 1919 június 26.

14) Budapest Központi M. K. tanács 500-as, 600 f., 3/4 őe., 1919 július 3, 8, 11.

15) Vörös Újság, 1919 április 9.

16) Népszava, 1919 április 15, 24, 29. ジェールからは2,000頭以上の豚、150頭の牡牛、200台分のジャガイモ、50台の野菜、何千羽の家禽、4,000個の卵が運び込まれた。Népszava, 1919 április 24.

た<sup>17)</sup>。地方タナーチの多くは首都への食糧輸送に協力したが、一部の地域、たとえばヴァッシュ県のタナーチでは、余剰生産物を都市の食糧供給にまわすかわりにオーストリアに輸送し、そこで商品と交換した<sup>18)</sup>。

ハンガリーでは都市と地方の対立をさけるため、食糧徴発は最悪の場合まで強制的に義務づけられることはなかった。中央タナーチの共産主義者たちは、武装した組織労働者の助けを借りて「ロシア的方法」で徴発を行なうよう繰り返し要求したが、社会民主主義者右派のエルデーイ Erdély Mór を人民委員とする食糧供給人民委員会 Közellátási Népbiztosság は強制的徴発を拒否しつづけた<sup>19)</sup>。食糧問題改善の抜本的対策は行なわれないうまま、首都にはヤミ行商がはびこった。政府および中央タナーチは、首都の食糧必要量を減少させるため、「資本によって生産しているもの、何らかの生産労働によって賃金を得ることを保障しえないもの」を首都から地方へ移住させるよう、また地方タナーチがこれらの移住者を受け入れるよう訴えた<sup>20)</sup>。これは食糧問題解決と同時に、首都の階層の均質化を図ったものであったが、このことは地方における階級間の矛盾を助長し放置する結果となった。

中央タナーチでは7月8日の会合で、各区に食糧供給管理委員会を設置し、委員会のメンバーが勤労婦人を中心に編成されるよう提案が出された<sup>21)</sup>。以後ブダペシュトの食糧供給地区は細分化され、住民は居住地のみで食糧を購入するシステムとなり、ヤミ売買は妨げられた。

文化問題については中央タナーチ文化委員会がこれを執行した。文化委員会は、教育面では、革命政府教育人民委員会の仕事を援助し、首都における小・中学校、大学教育の方針づけ、青年労働者の学校外での教育について、政府の布告を遂行した。また、新聞・雑誌・図書の充実、図書館・資料館・博物館の整備、音楽・映画・スポーツの活発化を、革命政府、区タナーチとの連携によって遂行した<sup>22)</sup>。

中央タナーチの議事録を通して特に目につくのは、革命政府のメンバーが次々と中央タナーチの会合に参加して、労働者タナーチの意義、国際主義の重要性、外交政策の現段階、赤軍の組織化の必要性等を説明し、共同闘争を訴えていることである<sup>23)</sup>。これは革命政府が中央タナーチを特に重要視していたことを示していると言えよう。

17) Kormányzótanács, 601 f., 1/21, 1919 május 23; Budapest Központi M. K. tanács 500-as, 600 f., 3/2 óe., 1919 május 24, május 31.

18) Párttörténeti Intézete Archivum, Belügyi Népbiztosság, 603 f., 6/35. ヴァッシュ県下の多くの地域はのちにドイツ人自治区に移行した。MMTVD, VI köt, B, 819 sz., 1919 július 17, 473 old.

19) Budapest Központi M. K. tanács 500-as, 600 f., 3/2 óe., 1919 május 24, 31.

20) Vörös Újság, 1919 június 14, június 25.

21) Budapest Központi M. K. tanács 500-as, 600 f., 3/4 óe., 1919 július 8.

22) Kormányzótanács rendeletei, I füz, XVIII, XXIV, XLVII, LIV sz; U. o, Közoktatásügy, 1, 5, 6, 8, 9, 10, 11 sz; Budapest Központi M. K. tanács rendeletei, 1919 április 11, 14 sz; április 18, 15 sz; április 25, 16 sz; május 2, 17 sz; május 22, 19 sz; július 4, 26 sz; A Magyar Tanácsköztársaság művelődéspolitikája, Válogatott rendeletek, dokumentumok, cikkek, Bp., 1959, I-A, 18, 25 sz, I-C, 34, 35, 36 sz, I-D, 47 sz, I-E, 63, sz, I-F, 75, 76 sz, I-G, 83, 85 sz, II-A, 87, 91 sz, II-B, 106, 107 sz, II-C, 115 sz, II-D, 118, 119, 122, 125, 132 sz.

23) Budapest Központi M. K. tanács 500-as, 600 f., 3/1-3/5 óe, Budapest Központi M. K. tanács 80-as, 600 f., 3/6-3/8 óe.

〈区タナーチ〉

区タナーチは、革命政府、中央タナーチの方針をうけて、それぞれの区で大衆の組織化と兵士の動員を行なうとともに、大衆の教育、福祉、生活改善を直接遂行した。

4月中旬、ルーマニア軍の侵入が明らかになると、特に住民と直接かかわりを持った区タナーチで革命の危機が叫ばれ、赤軍の組織化が訴えられているし、懸案の首都の住居問題についても、まず赤軍兵士の家族に家を与えるよう指示されている<sup>24)</sup>。また6月に入ると、反革命の運動が高まり蜂起がおこるなかで、区タナーチの会合では、区の兵士・労働者タナーチがイニシアチブをとって、反革命に対して厳しい調査・追求を行なうよう決議している<sup>25)</sup>。

しかし軍の徴兵、反革命への対処など、直接かつ緊急に大衆を組織すべき課題を除いては、区タナーチが政治問題に直接関与することはほとんどなかった。政治、経済問題は、革命政府および中央タナーチの課題であり、各区タナーチの課題は、より直接に地域住民と結びついた地方行政の運営にあったと言える。これは一つには、区タナーチの権利がかなり制限されていたためであった。たとえば区タナーチの自治 *autonómia* は、タナーチ共和国が「官僚国家でないがゆえに」多くを認める必要のないものとされた<sup>26)</sup>し、反革命の運動に対して独自に評価を下し逮捕するなどの警察権の行使は許されなかった<sup>27)</sup>。また区タナーチは食糧問題についても独自の行動をとることはできなかった<sup>28)</sup>。

一方タナーチ共和国樹立以前からのタナーチ組織の存在があったために、区タナーチはブダペシュト中央タナーチに比べてより活動的、急進的であった。旧区役所事務員組織はほとんど追放され、タナーチ選挙後も新社会党のメンバーが若干加わったのみで、タナーチ共和国樹立以前のタナーチ・メンバーが多くを占めた<sup>29)</sup>。区タナーチの活動的、急進的、自立的な行動と、それを制御しようとする上部タナーチの関係は、タナーチ共和国樹立以前の社会民主党とタナーチの関係を思いおこさせる。区タナーチにおいては、初期のタナーチの自立的、反中央集権的、急進的な性格が変化せず保たれているといえよう。

区タナーチは、食糧供給、住居配分、建設、学校・地域教育の面できめ細かな政策を遂行した<sup>30)</sup>。

ブダペシュト中央タナーチ、区タナーチは、それぞれ独自の任務を負いつつその課題を遂行した。中央タナーチは革命政府と密接に連携しながら国の内政、経済を援助し、首都の食糧、住居問題に対処し、勤労者の文化・生活を改善した。区タナーチはより地域に密着し、タナーチの組織性を基礎に、一定の制限を上から加えられながらも、赤軍の組織化、反革命の制圧、区住民の生活・文化水準の向上に尽力したのである。

次に地方のタナーチ組織を見てみよう。

24) Budapest Kerületi tanács, I Kerület, 600 f., 3/9 őe, 1919 április 20, 22.

25) Budapest Kerületi tanács, I Kerület, 600 f., 3/9 őe., 1919 június 28.

26) Budapest Kerületi tanács, VII Kerületi, 600 f., 3/15 őe., 1919 május 12.

27) Budapest Kerületi tanács, II Kerület, 600 f., 3/10 őe., 1919 június 6.

28) Budapest Kerületi tanács, VI Kerület, 600 f., 3/14 őe., 1919 május 23.

29) Hajdu Tibor, Tanácsok Magyarországon, 213 old.

30) Budapest Kerületi tanács, X Kerület, 600 f., 3/18 őe., 1919 július 25; II Kerület, 600 f., 3/10 őe., július 24; III Kerület, 600 f., 3/11 őe., április 18, június 6; V Kerület, 600 f., 3/13 őe., május 20.

## 〔2〕 県タナーチおよび郡タナーチ

地方タナーチの任務は、それぞれの地域において革命政府の決定・布告を執行することであった。しかし地方タナーチは、首都のタナーチに比べてより地方の利害を代表する性格を持っていた。

地方タナーチの課題は一つには、首都のタナーチと同様、国防、住民の生活改善、文化・教育の育成、等にあった<sup>31)</sup>。もう一つの重要な課題として、農業生産の管理・方針づけがあった。この問題を担当するため、6月15日、革命政府国民経済会議 Nép gazdasági Tanács は、県タナーチに国民経済地域会議 kerületi népgazdasági tanács を設置する布告を行なった。国民経済地域会議の任務は、主に生産協同組合 termelősövetkezet の組織化であったが、革命政府の国民経済会議の下で、その地域全体の経済問題を管理し執行した<sup>32)</sup>。国民経済地域会議は、国营の工場、農場のみならず、私有の農場、工場における生産の方針づけ、原料供給、また地方生産物の収穫、分配、生産手段の使用方針や地方財政の方針、管理にも関与することができた。国民経済地域会議の設立以降、政治的課題の遂行、改良、提案は県タナーチの任務、経済公務の専門的作業の遂行、管理は国民経済地域会議の任務となり、県タナーチ執行委員会はこれに干渉することはできない、とされた<sup>33)</sup>。

このように、地方では特に生産関係を重視していた点が注目される。実際、ハンガリーの生産協同組合組織化の運動は、既にタナーチ共和国樹立以前から始まっていた。最も早かったショモジ県では、1919年2月に始まり4月中旬にはほぼ完了しており、フェイェール県では4月末に完了した。続いてドナウ沿岸のザラ県、ヴァシュ県、トルナ県で次々と生産協同組合が組織され、5月の後半には終了した<sup>34)</sup>。タナーチ共和国政府がロシアとの違いを自負した所以は、この生産協同組合組織化の異例の早さであった。レーニン以降一般に批判しつづけられた、ハンガリーにおける土地の「性急な」社会化も、こうした農村の現状をみるならば、単に誤ちであったと切り捨てることはできない。

一方郡タナーチについて見れば、郡の行政機構設立の目的は、一つには、タナーチ体制が農村に充分機能し、目くばりを可能にするためであり、一つには、農民を信頼し難いが故に中央から遠ざける意図をもつものであった<sup>35)</sup>、ということは先に述べた。しかしこれ

31) たとえばハイドゥ・ビハル県の行政機構を見てみると、全部で10委員会に分けられており、それぞれ、1. 内務委員会、2. 軍事委員会、3. 食糧供給委員会、4. 社会生産委員会、5. 農業委員会、6. 教育委員会、7. 司法委員会、8. 住居委員会、9. 労働委員会、10. 財務委員会となっている。A Tanácsköztársaság Hajdu-Biharban, 1919, Dokumentumgyűjtemény, 176-177 old.

32) MMTVD, VI köt, B, 660 sz., 252-254 old, 1919 június 17.

33) MMTVD, VI köt, B, 660 sz, 253 old.

34) その他、ショブロン、ペシュト、ヘヴェシュ、ノーグラードの各県でも同様に、急速な生産協同組合の組織化が進められた。MMTVD, VI köt, A, 197, 198, 199, 224, 225, 266, 449, 480 sz; Földmunkás és Szegény paraszt mozgalmak Magyarországon, 1848-1948, II köt, Bp., 1962, 591 old.

35) ロシア革命を体験したクンをはじめとする政府指導部が農民に消極的であったことを裏づける史料は多い。一連の農業政策において政府は、①土地分割ではなく社会化によってのみ貧農を革命化できると考えていた。Kormányzótanács, 601 f., 1/3 óe, 1919 március 27. ②農民は我々の方針を信頼していないと公言しており、それ故に小農(5~100ホルドの広範囲の農民)を区別せず「中立化」しようとした。MMTVD, VI köt, A, 138 old. なおクンは、党大会における赤軍編成の訴えに際し、工場プロレタリアートを生産労働の場に残しておくため、より積極的に農民の赤軍部隊を編成するよう訴えている。Kun Béla, A Magyar Tanácsköztársaságról, Válogatott beszédek és írások, Bp., 1958, 239 old. タナーチ共和国の農業政策については、Mészáros Károly, Az

までのハンガリーに郡の自治 *járási önkormányzat* が存在していなかったことを考慮するならば、郡タナーチ機構は、地方において大衆参加による自治を生み出し、促進させた最初の機関<sup>36)</sup>として評価することができよう。

県タナーチ、郡タナーチはまた、反革命、ルーマニア軍、チェコ軍の侵攻に対する反撃の組織化、革命裁判所の設置など、大衆を組織、強化していく上で、中間行政機関として積極的役割を果たした<sup>37)</sup>。

### 〔3〕 市タナーチおよび村タナーチ

それぞれの村の住民を直接に代表したのは地域のタナーチ *helyi tanácsok* であった。首都、都市、農村を通して、地域のタナーチの機構は「プロレタリア独裁を實踐する基礎」<sup>38)</sup>とされた。市・村タナーチでは、県・郡タナーチ以上に、地域住民に直接かかわりを持つ生活・文化水準、福祉の向上にまず任務の重点が置かれた。

これはしばしば、中央に対する市・村の利害を守るという形で表われることになった。市タナーチ、村タナーチは新しくできた郡タナーチと異なり、旧行政機構をそのまま受け継いだ所も多かった。ドナウ河北西部の諸県では、タナーチは旧機構の影響下にあり、さまざまな点でタナーチ機構が円滑に作用していなかった。旧体制の封建的諸要素が残存し、反動的人物がタナーチのメンバーになった地域、ヴァッシュ県、ボルショド県などの一部では、タナーチ・メンバーが活動に参加しなかったり、活動を妨げたりした<sup>39)</sup>。地域のタナーチ、特に村タナーチは、必ずしもすべてがプロレタリア独裁の地域的権力組織の役割を果たすものではなかったのである。

こうした地方で、反政府、反革命の動きが顕著になり、加えて国境を越えて隣国軍が侵入してくる状況の中で、革命政府は当初の「地方自治」を大きく制限せざるを得ないこととなった。地方タナーチは「完全な自治」を要求したが政府はこれを許さなかった。政府の理論は、「自治」は無政府主義的なものであり、官僚主義を排除している以上、自治のために闘う必要はない、というものであった<sup>40)</sup>。

市・村タナーチにおけるもう一つの重要課題は、県・郡タナーチと同様、地方における生産の方向づけと管理、社会化の確立であった。ここでは、経済機構の組織化、農業・商業・小工業の計画化、食糧管理、輸送等の問題が検討された<sup>41)</sup>。地方の都市および農村

őszirózsás forradalom és a Tanácsköztársaság parasztpolitikája, Bp., 1966; Szemere Vera, Az agrárkérdés, 1918-1919-ben, Bp., 1963. を参照。

36) MT, VIII köt, 241 old.

37) Válogatott dokumentumok Csongrád megye munkásmozgalmának történetéből, 254 sz, 405-407 old, 256 sz, 408-410 old, 272 sz, 433-434 old.

38) Kormányzótanács rendeletei, I füz., XXVI sz, A Magyarországi Tanácsköztársaság Ideiglenes Alkotmánya, 3 §, 33 old.

39) MMTVD, VI köt, A 167 sz., 165 old; Ki a jövőnek vet magot..., 11 old. こうした地域では反革命の影響が大きく、革命政府の会議でも繰り返し論議されている。Kormányzótanács, 601 f., 1/22 őe, 1919 május 30, XXIII sz; 601 f., 1/23 őe, június 4, XXIV sz.

40) Budapest Kerületi tanács, 600 f., 3/15 őe., 1919. május 12. 地方自治の問題は国境周辺では民族の問題とも関連してくる。タナーチ共和国憲法は、地区によっては民族タナーチの形成と独立の行政を認めたが、これをタナーチ連邦共和国の一部とし、完全な自治は認めなかった。MMTVD, VI köt, B, 638 sz, 222 old.

41) MMTVD, VI köt, A, 434 sz, 484-485 old; 443 sz, 500 old; A Tanácsköztársaság Hajdu-Biharban, Dokumentum gyűjtemény, 241 sz, 243 sz, 284-286 old.

は、国全体のエネルギー源であり、食糧庫であった。市・村タナーチの運営は、国の内政に直接影響を与える問題であったのである。

しかし上述したように、市・村タナーチが地域の利害を代表するという性格を持っていたため、ここでも個々の地域のタナーチが自分の地域の利益を国の利益に優先させようとする行為はかなり頻繁に起こった。いくつかのタナーチが村から都市へ食糧品を持ち出すことに抵抗を示したことに對し、政府の食糧供給人民委員会は地方県タナーチとともに徴発行動に出ざるをえなかった。ヴァッシュ県では県に集められた350台分の穀物のうち、180台がブダペシュトに送られ、その他の生産物の大部分も徴発された<sup>42)</sup>。一方、農産物をブダペシュトでなくオーストリアに送るような行為を防ぐために、都市と農村の生産物交換が実施された<sup>43)</sup>。各地域の現状の差異を考慮しない土地の社会化や性急な農業政策は、一部の村タナーチの反発を招き、農村が反革命の温床となる素地を築いた<sup>44)</sup>が、農民の生活環境はタナーチ共和国下でかなり改善された<sup>45)</sup>。

地域のタナーチは、隣国の侵入、反政府活動の鎮圧のために軍隊を組織するなどの点では積極的に革命政府の立場に立った。セーケシュフェールヴァールでは、ポガーニ軍事司令官の呼びかけを受けて、1日で赤軍義勇兵の数は1,500人となった。またミシュコルツ、ディオージュジェールでも赤軍の組織化が急速にすすめられ、5月の終わりには4,000人の労働者が軍隊に入隊した。ナジヴァーラド、デブレツェンその他の地域でも、市・村タナーチの指導によって成功裏に赤軍徴兵がすすめられた<sup>46)</sup>。こうした赤軍への積極的な入隊は、タナーチ国家への忠誠、プロレタリア意識と直接結びつくというよりも、危機に瀕している自国を守ろうとする強烈な愛国心からくるものであった。労働者・農民の大量な自発的な入隊があった地域はいずれも、ルーマニア軍、チェコ軍による攻撃から直接の脅威と影響を受けた地域であり、ミシュコルツの場合は、5月のチェコ軍との攻防戦およびその勝利と新たな赤軍の北部進撃の時期に一致している。このことは赤軍が祖国防衛軍としての性格を持っていたことを示している。

反政府の大規模な武装蜂起に対しては、タナーチは国あるいは県レベルの指令によってこれを鎮圧したが、その他の場合には個々のタナーチが反政府活動に對処した。エステルゴム、ショプロンの市タナーチは、それぞれ自力で反革命政府の蜂起を鎮圧した<sup>47)</sup>。それ故反政府グループも蜂起の際には必ず地域のタナーチを攻撃した。カロチャでは蜂起の際

42) MMTVD, VI köt, A, 450 sz, 506 old.

43) Vörös Újság, 1919 május 31.

44) 反革命の組織者、参加者自体は、旧体制の支配階層、軍人、聖職者であったが、その主な組織場所が（ウィーン、セゲドを除くと）、ドナウ沿岸の農村地域とそれを取り巻く地域、セーケシュフェールヴァール、ソンバトヘイ、ショプロン、ヴェスプレームにある（L. Nagy Zsuzsa, Forradalom és ellenforradalom a Dunántúlon, 81-85 old.）ことから、農民が反革命の運動を積極的に許容していたことがうかがえる。

45) たとえば日雇い男性労働者の賃金が、15～20コロナだったものが、男性25～30コロナ、女性20～25コロナになり、貧農に対しては収穫物からの受け取り分が引き上げられた。また土地なし農民には放牧の可能性も保障された。Földesmunkás és Szegényparaszt mozgalmak Magyarországon, 1848-1948, II köt, 600-604 old.

46) MMTVD, VI köt, A, 461 sz, 512-513 old; 447 sz, 535 old; 544 sz, 633 old; MVH, 25 sz, 122-123 old; 44 sz, 158-160 old; 60 sz, 186-187 old; 68 sz, 190-198 old.

47) MMTVD, VI köt, A, 481 sz, 538 old; 563 sz, 650-651 old.

タナーチ・メンバーが捕えられた。ゲムシェドでは反政府活動家によってタナーチ議長が殺された<sup>48)</sup>

以上のように、市・村タナーチは地域の性格をそのまま代表しており、故に地域ごとにタナーチの性格は異なっていた。地方の自覚は高く、自治がかなり浸透しており、中央政府の指令は全国を覆い得てはいなかった。政府はこれに、商品交換、徴発など、懐柔と強制をもって対応した。赤軍徴兵・反革命への反撃など、地域の利害に合致する限り、大半のタナーチは政府に忠実であった。ハンガリーの地方タナーチおよび地方住民と政府との摩擦は、単に地方に反革命が存在していた、農民が反革命を「支持」した、地方タナーチがタナーチ政権に批判的であった故ではなく、地方の利害意識、自治意識が鮮明であった故であったのである。

#### 〔4〕 職場タナーチ

これまで見てきた地域別に組織されたタナーチとは別に、タナーチ機構には職場ごとのタナーチが存在していた。既にタナーチ共和国樹立以前に、自発的に形成された労働者タナーチは工場・職場を占拠し、自主的に運営を始めていた。こうした自主的な職場の労働者タナーチの形成を基礎に、タナーチ政権樹立以降、ほとんどあらゆる工場・職場で労働者タナーチが形成され運営権を握っていった。

3月26日、むしろ下からの運動に対処する形で、革命政府は、「生産手段を勤労者の社会所有に移し生産を組織し増加させるために、3月22日現在で従業員20人以上の全工場、鉱山、交通機関を共同所有に移し、これを全プロレタリアートの指導、つまり職場の労働者の管理の下に置くこと」を布告した<sup>49)</sup>。革命政府の社会生産人民委員の一人であったヘヴェシ Hevesi Gyula が『赤色新聞』で述べているように、「既に革命政府布告第9号が出された時には、職場の圧倒的多数が労働者タナーチの指導の下にあった。それ故布告後はただ、労働者の管理を命じられた統一的な形態へ修正することのみが必要であった」<sup>50)</sup>のである。

布告は、職場の労働者タナーチについて次のように規定している。1). 共同所有に移行された職場は、政府社会生産人民委員会によって指名された生産委員が指導する。生産委員は当該の職場においてプロレタリアート全体の代表者となる。2). 職場において労働者は労働者管理タナーチ *ellenőrző munkástanács* を選出する。労働者管理タナーチは、労働者数が100名以下の所では3名、100名以上の所では5名、500名以上の所では最高6名のメンバーによって形成される。選挙権および被選挙権は、職場で働く18歳以上のあらゆる労働者、婦人労働者に与えられる。事務員も労働者とみなされる。3). 労働者管理タナーチの課題は、プロレタリアートの労働規律を確立し、勤労者人民の所有物を防衛し、生産労働を管理することである。4). 労働者管理タナーチと生産委員との間に何らかの問題について意見の違いが生じた場合は、労働者タナーチは自ら決定する権利はないが、社会

48) Vörös Újság, 1919 április 24, június 27.

49) Kormányzótanács rendeletei, I füz., IX sz, 9 old. 何人以上の工場を社会化するかの問題についてはいくつかの意見が出されていた。旧社会民主党指導部の多くは50~100人以上の工場の社会化を要求した。ヘヴェシは10人以上の全工場の社会化を主張した。結局、タナーチ権力樹立以前の労働者タナーチによる工場の社会化の状況などを総合し、20人以上の工場の社会化を決定した。

50) Vörös Újság, 1919 április 19.

生産人民委員会に申し立てることができる。委員会は申し立てについて緊急に調査し、可能な限り早く決定を行なわなければならない。決定を待つ間、生産委員は規則を遵守する<sup>51)</sup>。

従業員の少ない職場については、次のことが決定された。1). 労働者タナーチは、3人以上の従業員がいる職場で選出される。そこでは生産委員は指名されず、所有者と労働者タナーチの代表が共同して職場を指導する。2). 従業員が3人以下の職場では労働組合代表がタナーチを兼任する<sup>52)</sup>。

こうして各職場で労働者管理タナーチが選出された。労働者管理タナーチの主な課題は、1). 職場の方針を管理・指導する。2). 労働規律を確立する。3). 労働者の生活、労働環境について配慮する。4). 赤軍の組織化および工場労働者の歩兵大隊の組織化、等であった<sup>53)</sup>。

このように、社会・文化生活に中心を置く地域タナーチに対し、職場の労働者タナーチは国の工業生産部門に責任を持ち、労働者が自発的に生産を管理・指導する活動を促進させた。タナーチ・メンバーは彼らを選出した労働者に直接依拠していたので職場労働者が受け入れ難い命令の遂行は困難であった。

しかし職場の労働者タナーチには問題点も存在していた。一つは、戦争で疲弊したハンガリーにおいてタナーチの管理に移された工場、職場では、十分に生産が行ないえなかったことであった。これは敗戦による経済の破綻、原料の欠乏、労働者の未熟練、工場およびその設備の破損等が原因であった。もう一つは、労働者自身の管理能力の欠如の問題であった。一部の職場では旧管理者や旧所有者が生産委員や労働者管理タナーチのメンバーとして留ったため、そうした職場ではタナーチが形式的にしか機能しなかった<sup>54)</sup>。これは特に農村の職場で多く、これによって労働者の自主的生産・管理は妨げられた。旧機構がそのまま温存されたのである。また工場でタナーチが中心となって生産の管理・運営を行なったことは、労働組合の存在意義を曖昧にし、労働組合がタナーチ政権から離反する結果を招いた<sup>55)</sup>。

以上、タナーチ機構の運営、その課題と活動について考察した。ここで明らかになったのは、各タナーチは、第一義的に地域の住民の生活環境改善、文化・教育・福祉の向上など社会的機能を持つものであったことである。概して首都のタナーチは地方のタナーチに比べ急進的であり、より革命政府と結びついていた。タナーチは官僚機構を否定し、自主性と自治を主張した。これは地方のタナーチにおいては地方の利害を代表するという形で

51) Kormányzótanács rendeletei, I füz., IX sz, 9-10 old, 1919 március 26.

52) Tanácsköztársaság, 1919 április 13.

53) Kormányzótanács rendeletei, I füz., IX sz, 9-10 old.

54) Varga Jenő, A proletárdiktatúra gazdaságpolitikája, Válogatott írások 1912-1922, Bp., 1976, 259 old.

55) タナーチ共和国期における労働組合については、A magyar szakszervezetek a Tanácsköztársaságban, Bp., 1970, 特にその中の論文, Kende János, Szakszervezeti vita a Tanácsköztársaságban, 28-40 old. を参照。Kendeによれば、タナーチ共和国樹立によって労組は政治的方針づけを党に譲った。労組には経済的管理・方針づけが残されたが、これは完全にタナーチと抵触した。自らの存在理由の喪失のため、労組は反タナーチとなり、労組政権の樹立を欲したのである。(労組の問題については、今後、より掘り下げて検討したい。)

現れた。赤軍の組織化と戦線への出兵、反革命との闘いという政治的レベルでは、全タナーチは革命政府と協力し積極的な役割を果たしたが、この行為も自主性を守ることに抵触していない。地方のタナーチ、職場の労働者タナーチは、工場・鉱山および農村における生産の社会化と自主的管理を行なう機能を有した。これはタナーチ共和国以前の土地の社会化と生産協同組合設立の運動、工場の占拠と社会化・自主管理の運動に依拠して急速に押し進められた。ここで気づくのは、運動の発展が均一ではないため、政府の布告や指令が全国的に執行されると、急進的ではなかった地域、特に農村では、農民の反発をかったり、自主管理の政策が充分効力を発揮しなかったことである。こうして、ある地域ではむしろ革命政府による追認という形をとった土地・工場の社会化が、他の地域では反発を招き、職場タナーチは旧管理者と同一という結果をも生み出したのである。

しかし全体から見て、タナーチ組織は自発的・自主的なものであった。タナーチ組織は地域ごとの程度の差はあれ、中央から統制された機関とはなり得なかった。それは赤軍の組織化に見られるように、愛国主義的ではあったが必ずしも一貫した社会主義的性格をもつものではなかった。それではハンガリーの社会主義政党はタナーチ共和国とどうかかわっていたのだろうか。これについて検討するため、最後に党とタナーチの関係を考察し、タナーチ機構の枠組を整理したい。

## V 章 タナーチと合同社会党

ここではまず社会民主党と共産党の合同の意味を検討し、次いでそうした合同党とタナーチの組織関係を考察したい。

〔1〕社会民主党と共産党の合同はいかなる意味を持っていたのだろうか。1918年11月24日に形成されて4ヶ月余りの共産党メンバーの約半数は旧社会民主主義者左派であったので、両党の合同は不自然な出来事ではない。しかしその評価は時と共に変化した。タナーチ共和国成立期には、合同は、クン、クンフィ、ルダシュ Rudas László によって繰り返し評価され、強調されてきた<sup>1)</sup>。中でもクンは合同を高く評価し、合同直後の『赤色新聞』で、社会民主党は民主主義的手段では自らの目的を果たせないと考えた結果、共産党の原則<sup>2)</sup>を受け入れ、合同したのである、と記している<sup>3)</sup>。クンは旧社会民主党左派であり、ロシアからの帰国後、社会民主党中央委員にむけても共産党設立を訴えた人物であるので、3月27日には、「もし4ヶ月前に社会民主党内に統一革命行動をおこす可能性があり、その過程で統一行動を妨げる思想的妨害や理論的差異がなければ我々は旧社会民主党を分裂させることなく喜んで共同行動を行なったであろう。」<sup>4)</sup>とさえ述べている。こうした視点はタナーチ共和国末期の社会民主党の「裏切り」—社会民主党単独政権構想のための画策と実現—によって大きく変化する。タナーチ共和国崩壊後の1919年12月21

1) Népszava, 1919 március 27, 30; Vörös Újság, 1919 március 23, 28; MMTVD, VI köt, B, 664 sz, 257 old, 1919 június 15.

2) 全権力をプロレタリアートの手に、プロレタリアートの武装とブルジョアジーの武装解除、労働者の軍隊の組織化、権力は労・兵・農タナーチが執行する、土地は分配せず共同化する、工場・鉱山・銀行・鉄道郵送手段の社会化、教会と国家の即時の分離。Levél Bolgár Ignáchoz, 1919 március 11, Kun Béla, Válogatott írások és beszédek, Bp., 1966, I köt, 192-194 old.

3) Vörös Újság, 1919 március 23.

4) Népszava, 1919 március 27.

日、クンは既に「裏切り者社会主義者」と題して「非革命的な社会民主党となぜ連合を結んだか」と自問し、共産党が小さく一党では課題を遂行することができなかつたからだと自己弁護している<sup>5)</sup>。ハンガリーでの社会民主党の「裏切り」が、レーニンの「共産主義インタナショナル加入条件 21 ヶ条」に忘れてはならない教訓として指摘され、第三インタナショナルは「改良主義および『中央派』の政策と完全に絶対的に絶縁する必要がある」と強調される<sup>6)</sup> 根拠となったことは周知のとおりである。こうして両大戦間期を通して否定され続けた 2 党の合同は、人民民主主義政権確立後を経て、コミンフォルム設立以降の東欧のソ連化—社会民主党と共産党の新たな合同を前に、党指導者によって「反革命からの国の防衛と革命の達成のため」必要であったと政策的に再び評価される<sup>7)</sup>。しかしこれも一時的であった。社会民主党と共産党との合同が達成されると、再びルダシュによって、合同は大衆の離反を防ごうとした社会民主党を利するものであり、政治的にも思想的にも、組織的にさえ、真の合同は存在しなかつた、共産党は合同によって新党で独立した影響力を持ち得なかつた<sup>8)</sup>、と否定されたのである。この傾向は 50 年代後半まで続いた。タナーチ共和国研究第一人者のハイドゥも、1958 年には、合同は共産党を組織的に社会民主党に解消するものであった<sup>9)</sup> と述べている。しかしハイドゥは 1969 年には、2 党の合同は種々の限界や妥協があったにせよ、プロレタリア革命の発展と勝利のために必要な措置であった<sup>10)</sup> と述べている。現在のハンガリー史学では 1919 年革命の評価に関してはこの 69 年の到達点が踏襲されていると言える。

実際ハンガリーの共産主義者は、種々の点で社会民主主義者に妥協的であった。しかしなぜ妥協しなければならなかつたのか。そのことを明らかにする一つが党名に関する問題である。ハンガリー共産党と社会民主党は合同に際して、共産主義インタナショナルの命名があるまでという条件で<sup>11)</sup>、「ハンガリー社会党」という名を採択した。この名前について共産党内部では当初さして問題が生じた記録はなく、そればかりか 3 月 26 日には共産党組織を解散し、新社会党へ移行する決議を行なっている<sup>12)</sup>。しかしコミンテルン執行委員会はハンガリー社会党の名に不満を示し、ハンガリーの党は「ロシア革命に続いて 2 番目にプロレタリア独裁を形成し国家権力を掌握したという（国際労働運動において）最も高い責任を負っている」が故に、絶対に共産党と命名しなければならない、と繰り返し要請している<sup>13)</sup>。

これに対してルダシュは、4 月 13 日付プラウダに「ハンガリー社会党」という論文を載せ、モスクワは共産党の名を要求しているが、異なった社会環境の国には異なった革命

5) Kun Béla, A Magyar Tanácsköztársaság, 1919 december 21, 306 old.

6) 『レーニン全集』第 31 巻, 200, 202 頁。

7) Andics Erzsébet, Demokrácia és szocializmus 1918-1919-ben, *Társadalmi Szemle*, 1947 december.

8) Rudas László, Elmélet és Gyakorlat, Összegyűjtött tanulmányok, Bp., 1950, 109 old.

9) Hajdu Tibor, Tanácsok Magyarországon, 186 old.

10) Hajdu-, A Magyar Tanácsköztársaság, 35 old; Hajdu, Az 1918 októberi polgári demokratikus forradalom, 28 old.

11) Dokumentumok a Magyar Párttörténeti tanulmányozásához, II köt, 63 sz, 1919 március 21, 120 old.

12) Vörös Újság, 1919 március 28.

13) MMTVD, VI köt, A, 13 sz, 16-17 old, 359 sz, 372-373 old.

の道がある、と述べて反論している。ルダシュは、ハンガリーでは労組が強く労働者は労組、社会民主党右派の下にあり、その影響力を過小評価することはできない、と指摘している<sup>14)</sup>。

6月12日、13日に開かれる党大会にむけて再びコミンテルンが党名を共産党と改めるよう要請した電報<sup>15)</sup>に関して、ルダシュは、次のように説明している。3月21日当時、社会民主党は共産党=ポリシェヴィキの綱領を受け入れ、統一の基礎に共産党の理論を置いた。我々はただ外的な小さな問題〔名称〕のみを受け入れなかったにすぎない、と。続けて彼は、新社会党にむけては、既に本質は取り入れているのだから形式も取り入れようではないか、と共産党の名称を採択するよう呼びかけている<sup>16)</sup>。

しかし党大会では社会民主主義者の力の大きさが改めて確認された。クンフィは1日目の演説で、党名を変更する理由はないと拒否した。クンフィは次のように述べる。ロシアでは共産主義者は社会民主主義者に対して激しい闘争をしてきたが、ハンガリーでは2党は合同したのであるから党名を特別に社会民主党から区別する必要はない。我々はロシアとは別の諸関係、別の経済的、政治的、文化的発展の中に生きている。マルクス主義の本質は、同じ形態を繰り返すことではなく、我々の関係、我々の労働運動にその方法を正しく適用することである<sup>17)</sup>。クンフィの演説は満場の拍手と共感をあびている。結局6月12日、13日の党大会でも共産党への党名変更はならず、党は「社会主義・共産主義労働者党」という妥協的名称を採用するのである<sup>18)</sup>。

共産主義者がこのように社会民主主義者に妥協せざるをえなかったのは、ルダシュ、クンフィによって指摘されているように、ハンガリーの現状からくるものであった。ハンガリーの労働運動においては労組の伝統が強く<sup>19)</sup>、社会民主党が労組を基盤として労働者の

14) Правда, 13 апреля, 1919.

15) Népszava, 1919 június 13.

16) Vörös Újság, 1919 június 13.

17) Párttörténeti Intézet Archivum, Párt Kongresszus. 608 f., 1/1 őe. 1919 június 12.

18) MMTVD, VI köt, B, 623 sz, 42 old.

19) ハンガリーにおける労組メンバー数の変遷

1901	10,000	1911	95,000
1902	15,000	1912	112,000
1903	41,000	1913	107,000
1904	53,000	1914	1月 96,000
1905	71,000		12月 52,000
1906	129,000	1915	43,000
1907	130,000	1916	55,000
1908	102,000	1917	215,000
1909	85,000	1918	721,000
1910	86,000	1919	4月 1,000,000
			6月 1,420,000

1918年以降メンバー数は急速に増加しているが、これは社会民主党の政権参加にともなうものである。1918年、19年は、従来の右派に比べ、左派の影響が強い労働者が参加してきている。

MT, 1890-1918, VII-2 köt, 700 old, 1215 old; Bakalisz Janiszné, A szakszervezetek szervezeti felépítésének alakulása a Tanácsköztársaságban, A magyar szakszervezetek a Tanácsköztársaságban, 55-56 old.

間に入り込んでいた。共産主義者は首都では労働者タナーチ、兵士タナーチにかなりの組織的影響力を持っていた<sup>20)</sup>が、地方において大衆の基盤を持とうとする限り、労組を握っている社会民主主義者右派を無視しえなかったのである。一方、両党はともに農村にはほとんど組織を持っていなかった。こうした状況の下での党とタナーチの関係はどのようなものであったのだろうか。

〔2〕 不一致点を残したままの2党の合同を基礎としたタナーチ共和国の樹立は、国家機構におけるタナーチと党との関係をも曖昧なままに留めた。クンが常に強調した、党は労働者タナーチの上に立つのではない、労働者タナーチが階級全体を代表する、党は労働者タナーチの資本主義に対する闘いを理論的に方向づけ規律を確立するのみである、という理論<sup>21)</sup>は、党が事実上タナーチを指導することを控えさせた。これは、当時のクンがタナーチを革命の主体ととらえていたためであるとともに、党よりもタナーチに左派・共産主義者の影響力が強かったため、クンが党の指導力の介入を望まなかったと考えられる。また実際、党はタナーチを指導するだけの力を持たなかった。一つには党内の対立、いま一つには下部の党組織の中央党組織からの離反が原因であった。地方、特に農村の党は組織としてほとんど機能していなかった。確かに共産党はその形成以降短期間で、首都の市民、兵士や、首都近郊たとえばショモジ県の農村の貧農層に支持を拡げていったが、これらの層は未だ十分に組織されていなかった。そしてこれらの層から共産党が形成される直前、あるいは形成されてまもなく、新社会党が中央に形成され、共産党組織は新党、いわば旧社会民主党組織に吸収されていったのである。一般に農村の党組織は事実上タナーチに肩がわりされ、独自の機構もなく活動もほとんど行なっていなかった。多くの農村の党組織は唯一タナーチを通して、中央の党の方針を遂行したのであった。反革命に対する闘争など、本来党に属すべき政治活動がもっぱらタナーチにおいて遂行された<sup>22)</sup>。元来党の組織基盤が脆弱なあるいはほとんど存在しなかった農村地域では、党活動は村タナーチの活動に併合され、急進的・活動的な農民の後から党员が続く形となった。こうして外交・内政の立案は革命政府および SZKIB が行ない、執行はタナーチ機関が行なうという、事実上のタナーチ国家体制が形式的には可能となったのである。しかし考察してきたように、地域のタナーチは一般に赤軍の組織化と反革命への対処以外はほとんど政治活動を行わず、(あるいは自治の制限から行なえず)、個々の問題では地方の利害を優先させて中央集権化を拒んだため、地方の政治支配は全く不十分であった。このことが地方で反政府勢力が成長することを容認したのであった。

党とタナーチとの関係における党の弱さは、組織基盤を持たない共産主義者の立場を弱めた。タナーチ政権樹立後の最初の数週間、政治的主導権は共産主義者の側にあったが、4月中旬のルーマニア軍・チェコ軍の侵入開始後、共産主義者は政権および赤軍の分裂を

20) ブダペシュト区タナーチでは共産主義者の影響力が強かったが、地方、特にフェイェール県、ヴェスプレーム県、ショモジ県では社会民主主義者の影響が大きかった。Kirschner Béla, A Párt a Tanácsköztársaságban, A Magyar Tanácsköztársaság 60 évfordulója, Bp., 1980, 212, 219 old.

21) 党綱領に関するクンの講演。Népszava, 1919 május 13.

22) たとえばノーグラード県およびジャルゴータリヤーン郡のタナーチの反革命に対する活動。Válogatott dokumentumok és adatok Nógrád megye munkásmozgalmának történetéből, 1918-1919, Salgótarján, 1975, 148 sz, 258 old, 149 sz, 259 old.

恐れて社会民主主義者の方針に妥協を重ねた。左派社会民主主義者は合同の推進者として政府を守ろうとしたが、初期の段階ではプロレタリア独裁を支持していたクンフィ、ベームらは徐々に共和国維持に懐疑的になり始めた<sup>23)</sup>。右派の労組指導部 ペイエル Peyer Károly, ペイドル Peidl Gyula らは5月半ばごろからタナーチ政権に対する不満を強め、『人民の声』紙上で共産主義者批判を開始した<sup>24)</sup>。ペイエルはブダペシュト滞在のイギリス使節に、労組指導部はプロレタリア独裁には参加しておらず、民主的労組政府を形成したい旨を伝えている<sup>25)</sup>。ブダペシュト赤軍司令官となった右派社会民主主義者ハウブリッヒ Haubrich József は7月には公然とタナーチ政権批判を開始し<sup>26)</sup>、赤軍兵士の間にも右派の影響が広がっていった。党内での右派の抬頭は、労働組合、赤軍兵士等組織された大衆の間に影響を持ったことに帰因するが、その政権の短命さ(1919.8.1-4)は、結局右派もタナーチ共和国への不満を組織しきれなかったことを示している。

ハンガリーにおける2党の合同は、平和革命を保障した。合同は、当初は妥協ではなくコミンテルンの批判にもかかわらず、積極的評価を与えられた。しかし徐々に2党の対立が深まったのは、理論的差異というよりも現実政策との関連—社会民主主義者と労組の関連の深さと、政府に対する労組の不満、共産主義者の大衆的基盤のなさ、ロシアへの依存—であった。こうした対立と官僚主義の否定がタナーチの自主性を促進した。また地方における党組織、政治組織の欠如は、中央への地方の結合力を弱め、反政府勢力の抬頭を容易にしたのである。

## 結 び

以上、1919年のハンガリー社会主義体制におけるタナーチ機構について、具体的事実在即して検討してきた。

ここで明らかになった点をまとめると、次のことが言えると思う。

ハンガリーにおいてタナーチは、最初、社会民主党や労組指導部の穏健さ・保守性に対して、より急進的に、自ら工場・土地を占拠して共同化する、また地方の行政権を掌握していく、という、自力による権力獲得をめざす運動体であった。民主主義革命以降、タナーチは、政府および社会民主党指導部の下に組み込まれて一時穏健化した。政府危機の中で、兵士タナーチを中心として再び権力の掌握をめざす運動として盛り上がった。

タナーチ共和国樹立以降、社会民主党と共産党の合同によって形成された革命政府は、こうしたタナーチの役割を重視し、タナーチ全国大会で形成された SZKIB を国家の最高機関としつつタナーチ国家機構を固めた。

タナーチ共和国では、各タナーチは、地域において、勤労者の生活水準の向上、文化・教育・福祉の充実などに力を注いだ。赤軍の組織化や反革命に対する防衛を含めて、タナ

23) クンフィは特に、自立した社会主義政権の設立を望み、ベームはオーストリア社会民主主義政権との提携によって西欧に承認されることを望んだ。MMTVD, VI köt, B, 22-23 old; Wilhelm Böhm, *Im Kreuzfeuer zweier Revolutionen*, SS. 497-498.

24) Népszava, 1919 május.

25) MMTVD, VI köt, A, 525 sz, 564-565 old. 8月1日に形成された労組政府では、ペイドルは首相に、ペイエルは内務大臣になった。Vörös Újság, 1919 augusztus 3.

26) MMTVD, VI köt, B, 798 sz, 430 old; 799 sz, 431-432 old.

ーチは地域住民の利害と結びつく問題には積極的に関与し、対処した。こうして、各地域のタナーチ機構が、実質的に、住民の生活と利益に立脚したタナーチ共和国を支えたのである。

しかし、選出されたタナーチ・メンバーは、必ずしも労・兵・農タナーチであったわけではなかった。タナーチ機構には、ハンガリーの歴史的条件や運動の性格に規定された、さまざまな問題点も存在していた。当時のハンガリーにおいては、労働運動における労組の影響力・基盤の強さ、農村に残る封建的性格、地方の社会主義組織の脆弱さあるいは欠如、などの問題があり、こうした諸問題が、修正主義的伝統を持ち、オーストロ・マルクス主義の影響を受けた<sup>1)</sup>ハンガリー社会民主党の性格と相まって、2党の合同、平和革命、社会民主党に対する共産党の妥協、党規律の弱さなど、ハンガリー・タナーチ共和国独自の特徴を示すことを余議なくさせたのである。

農村におけるタナーチ組織・党組織の弱さ、社会民主主義者と共産主義者の戦術の最終的な不一致、労組とタナーチを対立させたこと、官僚主義を否定しつつ自治を十分に保障しきれなかったこと、などは、結果的に、中央と地方の両方において、タナーチ共和国を内側から崩す要因となった。

このようなハンガリーの歴史的な問題や社会運動における独自の性格に規定されながらも、タナーチは、少なくともその方向性としては、ハンガリー民衆の手による、自立的・自主的な政治・経済・社会システムを作り上げようとした組織であり、ハンガリー史上において、ハンガリーの民衆自らが、それぞれの地域・経済基盤を基礎に自らの権力を獲得しようとした運動体であった。民意を反映しない政権に対し、ハンガリーで繰り返しタナーチ組織が形成されるのはこうしたタナーチの性格によると考えられる。

(1982年3月 脱稿)

## The Administrative System in the Hungarian Revolution —the Structure of the Councils' Power in 1919—

Kumiko HABA

### Introduction

- I. The Formation of the Councils and their early activity
- II. The Government Council and the Allied Central Executive Committee
- III. The National Councils Election
- IV. The Administration of the Councils
- V. The Councils and the joint Socialist Party

### Conclusion

This article investigates the Hungarian administrative system in 1919, that is,

1) Tibor Hajdu, *The Hungarian Soviet Republic*, Bp., 1979, p. 8; Peter Kenez, *Coalition Politics*, *op. cit.*, p. 64.

the function and the activity of the Councils' power in the Hungarian Councils' Republic. Through this work, it intends to throw light upon the first Socialist system in Eastern Europe in the early 20th century, in which Eastern European people groped for a way to have socialism fit their own country. The work seeks to clarify the characteristics of the Hungarian Revolution. Simultaneously it means to attempt to connect that period with the history before and after, which the scholarship has always treated as the cut-off age in Hungarian History.

At first it shows the historiography of scholarship about the Hungarian Revolutions, and the Councils. The researches on the Hungarian Revolutions in 1918–1919 started just after the break-down of the Revolutions, but those had been very ideological, or self-justifying, not scientific. (As to “The Historiography of the Hungarian Revolutions”, see my other article in *Study of International Relations*, 1980, Supplement II, pp. 51–72.) Attempts to be objective and synthetic started only after the 1960s, when the Hungarian social situation and the Hungarian Academical situation changed. Scholars began to research the history of the country-side, the, so called, anti-revolutionary movement and the agrarian movement, which had not been researched enough, and to compile and publish the documents. As a summing-up of the scholarship in the 1960s, we can see the 50th anniversary of the Hungarian Councils' Republic in 1970 and two books by Tibor Hajdu, (*The Hungarian Soviet Republic*, 1969; *The Hungarian Bourgeois Democratic Revolution in 1918*, 1968.) as good examples. As to the scholarship concerning the Councils, very few articles treat the Councils' power itself, in spite of the fact that the Councils are always considered to be at the core of the Hungarian Revolutions. Hajdu wrote the book, *The Soviets in Hungary* in 1958, but as to this book even he could not get rid of some problems, for example, the underestimating of the Social-Democratic Party or the overestimating of the influence of the Russian Revolution. These problems are not seen in his two books in 1968 and 1969.

Actually, however, the Councils have profound roots in Hungarian History. When the formation of the Councils was declared for the first time in the Labour Movement of 1918, it meant an autonomous, self-governmental system originated in both the Russian Soviet and the Paris Commune, which were considered to be the same system at that time. The Council meant the self-administration or at least the participation in power by the masses. It can be regarded as the successor to the thought of *Pilvax circle* by Sándor Petőfi in 1848, which intended to change the society to one based on the power of the masses. Between and after the wars and when Hungary became a Socialist Country again, the spirit of the Council remained, and remerged several times. Each time the people demanded real participation in power themselves under the system of the councils. Now “the Councils” means the regional administrative system in Hungary. The real Council was meant, however,

not as the *fixed* power system, but as the organization through which the masses could participate in sharing power. So it is very important to examine, what role the Councils played and how they worked in the first Hungarian Socialist Governmental System. In addition, this article will reexamine the characteristics of the Hungarian Revolutions through the movement of the Councils and the masses. The characterization of the Hungarian Councils' Republic was examined by Iván Völgyes, "Soviet Russia and Soviet Hungary", *Hungary in Revolution*, 1971, and by Peter Kenez, "Coalition Politics in the Hungarian Soviet Republic", *Revolution in perspective*, 1971. But they explained it only by the ideology and the organ of the Hungarian Communist Party. It seems that those are not enough to characterize the Hungarian Councils' Republic.

The first chapter examines the formation and the movement of the Councils before the establishment of the Socialist Government, and clarifies the characteristics and the actual circumstances of the Councils. We will find here that the Councils were at first formed in each factory and workshop by radical workers. After the Democratic Revolution, however, workers and regional Councils were organized under the Coalitional Government, especially under the leadership of the Social Democratic Party. On the other hand, the Soldiers' Councils remained under the influence of leftist socialists. After the formation of the Communist Party and the failures of the internal and the external policies of the Government—especially the halfway land reform policy—, the autonomous and independent movement extended widely among the regional Councils in the spring of 1919. The Councils came to occupy the administrative structures one after another in many cities. The real power for the establishment of the Hungarian Councils' Republic was what the Councils developed and extended during the nation-wide movement under the Democratic Government. The Councils' Republic was not formed only on the influence from outside, but offered as the solution to the problems and circumstances in and around Hungary.

The second chapter explores the characteristics and activities of the Government Council, the top of the Socialist National structure, and of the Allied Central Executive Committee elected in the National Councils Election. The Government Council formed by the joint Social Democratic and Communist Party was always torn between confrontation and compromise with leftist and rightist factions in the Socialist Government. But the Government regarded the role of the Councils as very important, and intended to manage and administer the state by the execution of the Councils' power.

The authority of the Allied Central Executive Committee was restricted, but it was connected with the Government Council closely and speeches by the members of the Government Council were made many times about the diplomatic situation, the organization of the Red Army, the strengthening and reorganization of Workers' Councils, the importance of unification etc, at meetings of the Allied Central Executive

Committee.

The third chapter investigates the National Councils Election, the actual state of the election and the members of the elected councils. We can say that the Councils Election achieved its stated aim enough at the point where the conscious masses participated in administration all over the country for the first time, no matter what the election was held only two weeks after the establishment of the new Socialist Government. One reason why the election succeeded was what the election was not based on parties but on the Councils. (If it had been based on parties, the socialist parties might have been unable to get a high percentage of the vote.)

From the analysis of the Councils' members, we can see, on the one hand, the tight organization of workers by the Hungarian Trade Union, the importance of the agricultural workers in Hungary, the role of intelligentsia in the Councils. On the other hand, we must take into account the many *non*-workers in the Councils, for example, land-owners, shop- or factory-owners and aristocrats, and the deep rooted feudalistic character of the country-side seen in sex discrimination for example. The difficulty extending the influence of the Central Government to the country-side is revealed.

The fourth chapter shows how the national Councils structure which had been established by the Councils Election was managed in both the capital and the country-side, through each Councils structure. We can see that the prime task of Councils was not a political, but a social function, for example, the improvement of living standards, education, culture, welfare, and so on. Generally speaking, the Councils in the capital were more radical and connected more closely with the Government Council than the Councils in regional areas. The Councils rejected the bureaucratic system and insisted on their independence and autonomy. In the country-side, the Councils sometimes stood up for regional advantages against the Central structure, especially on economical issues. On political questions such as the organization of the Red Army and sending soldiers to the front, the fight against anti-revolutionary power, most Councils played a positive role in co-operating with the Government Council, but these activities did not obstruct their independence.

Regional and Workers' Councils had the function of socializing the production in factories, mines and farms, and of managing autonomously. That this proceeded rapidly, depended on the movement towards socialization of land and factories and the foundation of co-operation associations before the establishment of the Socialist Government. The Councils did not want to become structures controlled by the Central Government. Most Councils were patriotic but not socialistic completely, as it was seen in organization of the Red Army. They organized the Red Army from the all classes and layers of Hungarian Society to defend the Mother land. Afterward a part of the Red Army laid down their arms to the anti-revolutionary army *to defend their*

*Mother land.*

The last chapter examines the relationship between the Councils and the joint Socialist Party, especially the conflict between the social-democrats and communists, and the relation between the Councils' organ and the Party's organ. The joining of the two socialist parties guaranteed a peaceful revolution. The joining of the two parties received a positive response in Hungary despite of criticism of the Comintern. The conflict between two parties was not an ideological difference but stemmed from the Hungarian *status quo*; that is the strong connection between social-democrats and trade unions, the dissatisfaction of Trade Union leaders with the Government, the lack of mass organization among Communists. The conflict between two parties and the rejection of bureaucracy made the Councils autonomous. Besides, the lack of a party political organ in the country-side weakened the connection between the Councils and the Central Government, and made it easy for the anti-government power to rise up and achieve power in the country-side.

The Councils in Hungary were, at first, the radical movement which socialized the factories and land by themselves. They tried to achieve power and regional administration by themselves, against the conservative masses and moderate Social Democratic Party and the Trade Union Leaders.

The elected Council members, however, could not call themselves completely "Workers, Soldiers and Peasant Councils". There were many problems in the Councils' structure dependent upon Hungarian historical conditions and the characteristics of the Hungarian movement itself.

The problems were; the great influence of the Trade Union within the Workers Movement, the feudalistic character which remained in the country-side, the weakness of the rural socialist organ. These problems, combined with the characteristics of the Hungarian Social-Democratic Party, which was the traditional reformist party and under the influence of Austro-Marxism, produced the particular features of the Hungarian Councils' Republic, that is, the joining of the two socialist parties, peaceful revolution, the compromise of the Communist Party with the Social Democratic Party and the weakness of Party discipline.

Those problems were also the factors which broke down the Hungarian Councils' Republic from the inside.

The Hungarian Councils' Republic had its own characteristics, based on Hungarian historical problems and social movements. The Councils were organizations which tried to establish an autonomous and independent political, economic and social system. The aim of Councils' movement was such that Hungarian peoples would achieve the power for themselves for the first time, rooted in regional political and economic autonomy.